

ニテ経営シタシトノ提案アリ

然シ借款条件ハ契約内ニ就テ研究協議スベキモノニテ中日合弁鉱山経営トハ全ク別個ノ問題ニ属スルニヨリ石井ハ右ノ件ヲ懸案トシ後日再ビ協商スベシト諾シ次イデ借款金額ヲ二百万円トスル説アリタルモ引受得ベキ額ハ凡ソ百五十万円前後ナルベシ若シ二百万トスレバ東京ニ電請シ自然契約条件ニ就キ重ネテ研究協議セザル可ラズトノ事ニヨリ先ツ百五十ノ数ト仮定シ契約条件ヲ協商シ支那側ヨリ草案ヲ提

出シ石井此レヲ日文ニ訳出シ相互商訂スル処アリ十六日ニ至リ東京ヨリ百五十万円引受差支ナシ但シ太子河沿岸ニ於テ鉱山合弁経営ヲ承諾セラレタシ若シ貴国ニ於テ投下スベキ資金ナキトキハ鉱山ヲ以テ株金ニ充当スレバ足レリト本件ニ関シ本署長及本庁ハ擅ニ承認スルコト能ハザルニヨリ先ヅ新任巡按使ノ来任ヲ俟テ其意向ヲ確メソノ同意ヲ得テ更ニ協商スベシ暫ク引續キ懸案トスルモノナリ

事項四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件

一一〇 八月十九日

福島関東都督ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯附近ニ於テ日本軍ガ中国巡警等ノ射撃ヲ受ケタル件

鉄嶺行軍隊ハ十七日午後二時鄭家屯東方一里半ノ地点ニテ巡警及土民ノ奇襲ヲ受ケ日本軍タルコトヲ証明シタルニ拘ハラス益々猛烈ニ射撃ヲ続行シタルニヨリ已ムナク戦闘ノ後之レヲ撃退ス我負傷ハ准士官一卒一馬一敵ハ屍体一負傷八馬二小銃九ヲ遺棄シテ逃走セリ行軍隊ハ予定ノ行軍ヲ続行ス依リテ師団ヨリ歩兵一中隊ヲ本夜鉄嶺出發行軍隊ニ追及セシム支那官憲ヘノ交渉ハ鉄嶺領事ニ通報シ置キタリ

一一一 八月十九日

在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯ニ向ケ行軍中ノ日本軍隊ガ中国巡警等ノ射撃ヲ受ケタル旨報告ノ件

第七号

在鉄嶺歩兵連隊ハ予メ本官ヨリ支那官憲ニ知照之上遼源県

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一一〇

一一一 一一三

一一二 八月十九日

加藤外務大臣ヨリ
在鉄嶺森田領事宛(電報)

及懷德県地方ヘ行軍ノ為メ八月十五日少佐ノ率ル二個中隊ヲ四平街迄鉄道輸送シ同地ニ於テ公主嶺騎兵連隊ヨリ派遣ノ騎兵二十ト合シ鄭家屯ニ向フ途中本月十三日附機密拙信所載鄭家屯方面ニ行軍セル我軍隊ハ十七日午後二時昌図県西孔樹林附近ニ達シタル時巡警及土民約三十ヨリ不意ニ射撃セラレタルヲ以テ日本軍タルコトヲ表示セシニ彼等ノ射撃益々甚シキニ至リ我人二馬一ヲ負傷セシメ我ニ敵対スルコト明白トナリタルニ付已ムコトナク之ニ応戦シ彼等ヲシテ北方ニ敗走セシム我負傷准士官一卒一馬一彼等ノ遺棄シタル屍体一負傷人八捕獲品銃九雜品若干行軍隊ハ十八日三江口一泊鄭家屯ニ前進シ支那側ニ交渉セントスル旨行軍隊長ヨリ当地本隊ニ電報アリ尚我師団ヨリ当地軍隊ニ電話ヲ以テ歩兵一中隊ヲ鄭家屯ニ増派準備ヲ命シ師団ハ増援隊派遣ニ付関東都督ニ上申中ナル旨通達セラレタル趣当地我旅団ヨリ通牒ニ接シタリ

一八九

中国巡警等ノ日本軍隊射撃ノ原因取調方ノ件

第七号

貴電第七号ニ付テハ都督ヨリモ大体同様ノ電報アリタル処
巡警及土民カ日本軍ト知リツ、突然射撃シタル原因至急取
調回電アリタシ

一二三 八月二十五日

在奉天落台總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中国側武官會議ニ於ケル張作霖ノ鄭家屯附近

日中衝突事件ニ関スル發言内容報告ノ件

第一六三号

近頃張作霖ノ顧問トナリタル前交渉員于冲漢ノ内話ナリト
テ得タル情報ニ曰ク時局以来屢々開カレタル支那側武官會
議ニ於テ張等ノ吐露スル意見ニ依レハ同人ハ深ク独逸側ニ
心酔シ居リテ膠州灣ノ如キ容易ニ日本軍ノ陥落シ得ヘキニ
非スト確信シ居レルモノ、如ク又鄭家屯附近ニ於ケル鉄嶺
ノ行軍部隊ト支那巡警トノ衝突事件ニ付テモ日本力故意ニ
事ヲ滿洲ニ起サントスルモノニ非サルカトノ猜疑心ヲ抱キ
居レル由ナリ北京ヘ郵報ス

ノ張番セルヲ認メタルカ賊ハ早クモ預備巡警ヲ認メ之ニ射
撃ヲ加ヘタルヲ以テ預備巡警亦之ニ応戦シ射撃ノ交換中同
所ノ南方ヲ通過セル日本軍隊ハ自身射撃ヲ受ケツ、アルモ
ノト認メシニヤ直チニ彼等預備巡警及馬賊ヲ包围シタルカ
馬賊等ハ日本軍隊ニ対シ射撃ヲ加ヘタル後西方ニ逃走シ日
本軍隊ハ次テ山咀子部落ニ入り該部落及高地ニ於テ預備巡
警及村民六名ヲ捕ヘ引揚ケタリ要スルニ本件ニ於テ預備巡
警ハ馬賊ト戦ヒタルモノニシテ日本軍隊ニ発砲シタルモノ
ニアラス云々ト答ヘタレハ

我警察官ハ調査員等ニ対シ山咀子附近ニ於テ所謂馬賊ノ死
傷及遺留品等ノ有無如何ヲ訊ネタルニ無之旨答ヘタレハ我
ハ進ンテ支那側調査員ノ採リタル調査方法如何ヲ糺シタル
ニ村民ノ報告ニ依リタル旨答ヘタレハ我ハ該村民ノ報告ニ
ノミヨリテ直チニ其原因ヲ決定セントスルカ如キハ甚タ早
計ナリト認メラル、ニヨリ共ニ現場ニ至リ立會ノ上再応調
査ニ当ランコトヲ求メシニ彼等モ之ヲ承諾シタレハ二十三
日鄭家屯發現場ニ到着シ詳細調査ヲ為スコト、セリ尚井上
少佐ノ言明スル処ニヨレハ、

井上少佐(行軍隊指揮官)ノ談話要領(曩キニ送付セル写

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一二四

一二四 九月一日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯方面ニ於ケル日本行軍隊ト中国巡警ト

ノ衝突事件ニ関シ取調報告並請訓ノ件

機密第二四号

(九月七日接受)

大正參年九月一日

在鉄嶺 領事 森 田 寛 藏(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シテハ時々及御報告置候処本件真相取調ノ為メ鄭
家屯方面ニ派遣セル我警部補ノ報告及拿捕巡警取調ノ結果
等ニツキ綜合考覈スルニ左ノ通りニ有之候

八月二十二日当館派遣警部補ハ遼陽県署ニ於テ昌図県知事
代理昌図県預備巡警総長張桂廷ハ面城分治委員郝成山及通
訳方寶銓ト會見シ彼等ノ調査セル模様ヲ聴取スルニ

一、本月十七日東姜家窩棚ニ駐在スル預備巡警百家長白玉
廷(白万庫)ハ山咀子部落ニ馬賊來襲セル報ニ接シ部下五
名ノ預備巡警ヲ率ヒ之レカ討伐ノ為メ騎馬ニテ該村落ニ向
フ途中山咀子部落ヨリ東方ニ延長セル高地ノ下ニ沿フテ進
行中高地西端ナル山咀子部落ニ接近セル個所ニ四名ノ匪賊

ト同ジ)

行軍隊ハ八月十七日正午頃富家屯東方約一里東孔樹林ノ東
方ノ無名部落ニ到着シ同部落東北端ノ樹林中ニテ昼食ヲ了
シ二時同地ヲ出發シ三江口方面ニ向ハントシ其先頭隊ハ既
ニ行進ヲ開始シ後尾本隊ノ一部ハ未タ又銃ヲ解カサル際西
孔樹林ノ方面ニ於テ銃声起リ彈丸ハ後尾本部ノ又銃地点ニ
落下セリ然モ行軍隊ハ之ニ介意セス進發シ其先頭ハ山咀子
(少佐ハ西孔樹林ト呼ヘトモ然ラス其東方三支那里ノ地点
ニアル山咀子ト称スル村落ノ誤以下同)ノ部落ヲ距ル東南
方約八百米突ニ到リシ時該部落及其ヨリ東方ニ約千米突延
長セル高地上ヨリ俄然數十發ノ射撃ヲ受ク依テ先ツ列兵ヲ
伏臥セシメ情況ヲ偵察セシニ巡警ヲシキモノヲ交ヘタル部
民二三十名ノ射撃スルヲ認メタレハ彼等ハ日本軍隊ナルコ
トヲ知ラスシテ馬賊等ト誤リ射撃スルニハアラスヤト思料
シ日本軍隊ナルコトヲ証明スル為メ大隊副官ヲシテ約三百
米突前進セシメ馬上ヨリ帽及手巾ヲ打振り合図セシメ本隊
ニ於テハ日章旗ヲ樹テ日本軍タルコトヲ表示シテ射撃ヲ中
止セシメントシタルニ高地及村落ヨリ益猛烈ナル射撃ヲ加
ヘ副官ノ乗馬ハ之レカ為メ頸部ニ銃創ヲ負フニ至リ国旗ヲ

所持セル特務曹長ハ胸部ニ貫通銃創ヲ負フニ至リタレハ敵ハ日本軍隊ナルコトヲ知り故意ニ射撃ヲ加フルコト明カナルヲ認め指揮官ハ部隊ヲ解散シ該高地及部落ヲ包囲シツ、射撃ヲ開始セシニ敵ハ暫時抵抗ヲ続ケタル後高地北方ニ退却セシヲ以テ続テ我軍隊ハ該高地及部落ヲ占領シ敵ノ六名ヲ捕虜トシ銃器九挺ヲ捕獲セリ此間我軍ハ特務曹長（胸部貫通銃創）及兵一名（腹部貫通銃創）並ニ大隊副官ノ乗馬負傷セリ敵モ亦死者一二名傷者数名ヲ生セシ模様ナリ交戦セシ敵ノ服裝ハ巡警ノ服裝ラシク是等ハ騎馬ニテ高地及村落間ヲ駈ケ廻リテ指揮シ且ツ頻リニ我軍隊ニ対シ射撃ヲ加ヘツ、アリシヲ現認セリ其他ハ普通支那服ヲ纏ヒタル農民体ノ者ニシテ敵ノ総數三十余名アリタルカ如ク現場掃除ノ際負傷者及土民十数名ヲ訊問セシニ馬賊ト交戦中日本軍隊ノ通過ニ遭ヒタルモノニシテ故意ニ射撃シタルモノニアラスト云フモ拿捕巡警ハ行軍隊昼食ノ際休憩所ノ附近ヲ徘徊セルモノナレハ日本隊ナルコトハ充分知悉セルハ明カナリ云々

支那側立会現場臨検ノ要領

支那側調査員等ハ再ヒ山咀子及東姜家窩棚ニ於テ二三住民

シ（兩名共其場ニアリ）

一、預警ト馬賊ト出会シタル地点ト日本軍隊ノ休憩地点トハ一千余米突以上ヲ隔ツ如何ニ射撃ニ習ハサル馬賊ト雖モ六七百米突ノ高地麓ニアル預備巡警ヲ打タンカ為メ一千余米突ノ地点ニ彈丸ヲ送ルヘキ筈ナシ以上支那側主張ノ矛盾ヲ示スノ甚シキモノニシテ虚構ヲ証スル一例ニ過キスト主張シ置ケリ

我派遣員ハ當時ノ現場ヲ目撃セル東孔樹林村民劉発及我兵狙撃ニ参加シタル白百家長部下ノ一人ナル預備巡警鄧福ニツキ取調タルニ劉発ハ日本兵カ東孔樹林中ニ休憩中白百家長等六名カ我兵ニ種々ナル事ヲ尋ネタルコト預警等カ立去リタル後間モナク西北ノ方角ニ銃声起リ日本兵ノ休憩セル地点ニ落彈シタルコト及其後進行中ノ日本兵ニ向ヒ彈丸ヲ打掛ケ来リタルコト暫クシテ日本兵ト山咀子及其東方高地ニ居ルモノトノ間ニ戦争カ始マリタルコトヲ陳述シ鄧福ハ日本兵カ東孔樹林ニテ食事中白百家長ハ日本兵ニ対シ出發地及目的地ノ如何其他種々ナルコトヲ尋ネタルコト等ヲ陳述シ此取調ニハ同行ノ八面城分治委員、昌図預備巡警総長及通訳ノ三名立会シタリ

ニ就キ取調タルニ住民等ハ何レモ曩キニ鄭家屯ニ於テ調査員等カ我派遣員ニ言明セルト同様ノ供述ヲ為シ調査員等ハ其他ニ何等彼等ノ主張ヲ有効ナラシムルノ証拠材料ヲ提出セス我員ハ現地ニ於テ支那側調査ノ矛盾首肯セラレ難キ点一二項ニツキ全然事実ノ虚構ナルコトヲ主張シ置キタリ即

一、預備巡警ノ通過セリト云フ地点ハ高地ニ沿ヒタル通路ニシテ高地ニ併行セルカ故ニ高地馬賊ノ張番セルト云ヘル地点ヨリ之ヲ射撃スルトキハ其彈道ハ日本軍隊ノ休憩セル地点ノ北方約四百米突以上ノ地ナラサルヘカラス

一、預備巡警カ馬賊ト認メタルトキ敵ハ有利ナル高地ニ占拠セルニモ拘ハラズ巡警等カ最不利ナル高地下ノ平坦闊濶地ヲ撰フノ理ナシ巡警等カ馬賊ヲ発見セルヤ速カニ高地ト同様ノ高サヲ有シ且其身ヲ隱蔽シ得ヘキ樹木アル高地ノ東端ニ上ラサルヘカラス殊ニ馬賊ノ張番セリト云フ地点ト預備巡警ノ進ミタル地点トハ射撃有効距離内ニアルニ於テオヤ尚該預備巡警百家長白某ハ從來実戦ニハ相当経験ヲ有スルモノナリトノコトニテモアリ実戦ノ經驗ニ富メル張預備巡警総長馮八面城区官等ハ其然ルヲ痛切ニ感セラルヘ

以上派遣警部補ノ報告要領ナルカ拿捕巡警等六名ハ我兵護衛ノ下ニ二十六日四平街我憲兵隊ニ送致セラレタルカ二十七日我師團參謀長ハ主理同道來鉄シ小官ト打合せノ上四平街ニ至リ拿捕巡警ノ取調ヲ為シ当館ヨリハ警部補ヲ同地ニ派遣シ參謀長等ノ取調後之カ取調ヲ了シ（預備巡警百家長白万庫等ハ我軍カ東孔樹林中ニ休憩中我兵ニ向ヒ実包ノ有無等ヲ尋ネ愈日本行軍隊ハ実包ヲ携行セサルモノト信ジ少人数ニテモ勝算アリト考ヘタルコト、我軍ヲ射撃シタルハ故意ニシテ決シテ馬賊ト接戦云々ノ事実ナキコト、我軍ニ敵対射撃セルハ十五日八面城ニ於テ預備巡警郷長孫佐臣ナルモノヨリ日本軍ノ北進ヲ阻止スヘキヲ命セラレタルニ由ルコト、孫ヨリ其配下ノ他預備巡警ニモ同様命令ヲ下シタルコトヲ聞キタルコト、味方ノ人員少数ナルヲ以テ他ノ預備巡警及土民ヲ招集シタルコト、其際土民等ニ対シテハ馬賊襲来セリト虚報セルコト等ヲ陳述シ尚參謀長ノ取調ニ對シテハ孫佐臣ハ呉統領ノ命ヲ含ミ其意圖ニ從ヒ部下ノ巡警ニ命令シタルヲ聞知セル旨陳述セリ）便宜一時憲兵隊ニ留置セシメ八月三十日警察官ヲ同地ニ派遣我軍隊ヨリ右巡警ノ引渡ヲ受ケタルカ内一人ハ重傷者ニシテ他ノ一人ハ本

狙撃事件ニハ關係ナキモノト認メタレハ同地ニ於テ右二人ハ支那官憲ニ引渡シヲ了シ殘部四人ハ当地ニ護送セリ以上ノ事實及預備巡警ノ口供ニヨリ我軍隊側ノ主張セル通り預備巡警等及附近村民等カ我行軍隊ニ対シ故意ニ発銃シタルコト明カニシテ支那側主張セル馬賊云々ノ如キハ責任ヲ免レントスル支那一派ノ虚構事ニシテ一顧ニモ値ヒセサルモノナリト断セサルヲ得ス

然シテ少数微力ノ預備巡警及村民等カ我多数ノ軍隊ニ対シテ何故ニ之ヲ襲撃シタルヤニ付テハ或ハ無智ノ預備巡警輩ノ事ナレハ我軍隊ノ休憩ノ際我軍力実包ヲ携帯セサルコトヲ聞キ之ヲ事實ト信シ浅慮無謀ニモ我軍ノ銃器ヲ奪取セントスルノ挙ニ出テタルモノナリトモ解セラレサルニアラサレトモ四囲ノ事情ヲ考察スルニ自カラ別個ノ解釈ニ帰着スヘシ当地方以北ハ從來排日思想ノ瀰漫セル地方ナルニ最近吳鎮守使カ多数部下ヲ卒ヒテ鄭家屯ニ駐屯シ附近ヲ威圧シ地方一般ニ其兵ノ強猛ナルヲ知り予テ強キ噂アル日本兵ナリトテ到底吳ノ兵ノ敵ニアラスト信シツ、アリタルニ歐洲戰乱開始前後ヨリ何故カ滿洲各地ニ於テ日支日米ノ開戦說ヲ流布セラレツ、アルノ際今回我軍隊カ鄭家屯方面ニ行軍

報ノミトハ断シ難ク拿捕巡警白万庫ノ口述ニヨレバ彼等ノ今回ノ行動ハ總テ八面城預備巡警郷長孫佐臣ナルモノノ命ニヨリ我軍ヲ北進セシメサル趣旨ヨリ出テタルモノナリトスルヲ事實ナリトスレハ孫某ノ取調ヘハ白ノ所謂孫ノ命令ナルモノカ何ニ根據スルヤモ分明スヘク今回ノ事件ニ関シ或ハ吳俊陞ノ立場モ此辺ヨリ了解セラルヘシト思惟セラルルノミナラス師団參謀長等ノ拿捕巡警訊問調書中ニアル白万庫ノ口述中孫ノ今回ノ命令ハ吳俊陞ヨリ出テタルモノナリ云々ノ真偽ヲモ明カニシ得ヘシ

要之今日マテ當館ノ取調タル限リニテハ本件ノ背後ニ吳俊陞ノ存在スルヤ否ヤハ明カナラス之ヲ明ニセンカ為メニハ孫某ノ取調ヲ進ムルト共ニ尚各方面ニ亘リテ其真相ノ探究ニ勉メサルヘカラス孫某ノ取調ハ支那官憲ニノミ委スルコト能ハサルハ勿論當方ニ於テモ之ヲ為スノ必要アリト被思考候本件ノ背後ニ吳俊陞ノ伏在如何ノ真偽ハ別トスルモ地方保安ノ任ニアル巡警等カ故意ニ我軍隊及国旗ニ対シ暴行ヲ加ヘ我兵員ニ重傷ヲ負ハシムルニ至リタルハ支那側ノ責任重大ナルモノアルノミナラス從來支那軍隊巡警等ノ不法行為事件ハ當館内ノミニ於テモ屢々繰返サレ其都度支那官

スルハ日支ノ開戦ヲ實現スルモノナリトシ地方民ハ訳モナク此流言ヲ事實ナリト信シ我兵ニ対シ反抗心ヲ熾カサレタリトスルハ必ズシモアリ得ヘカラサルコトナラズトセズ支那軍隊又ハ巡警等カ一ハ其強勇ヲ示シ商民ヲ威圧スルノ手段トシテ一ハ己レヲ知ラサル自負心ニ驅ラレテ益々此風潮ヲ助勢シタルノ傾アリ日支ノ開戦說ノ如キハ彼等支那兵又ハ巡警等ノ口ヨリ耳ニスルコト少カラス特ニ吳俊陞ノ如キ思慮ナキ一介ノ武弁ナルカ如キモ第一革命蒙匪討伐以來兵力ヲ恃ミテ切リニ財帛ノ蓄積ニ土地ノ買収ニ努メ該地方ニ於テハ勢力侮ルヘカラサルモノアリ今日ニ於テハ当地方以北ニ於テハ支那人ハ張作霖ヲ云ハスシテ吳俊陞ヲ稱フルカ如キ有様ナレハ彼レハ自己ノ力ヲ過信シ從來兎角排日の氣勢ヲ示セルコトモ亦事實ナリ將又昨年同地方ニ於ケル兵器密輸入事件以來我ヲ怖レ其奉天ニ出向スル際ノ如キ滿鉄ニヨルヲ避ケ陸路自動車ニヨルヲ常トシテ甚シク警戒ヲ加ヘツ、アリトノ事ナレハ今回我軍隊ノ行軍ニ関シテハ必ス有意味ノコトナルヘシト速断ノ結果道途伝フルカ如キ自己鎮守管内ニハ日本兵ハ一步モ進入セシメス云々ノ趣奉天張上將軍ニ打電傲言シタリト云ヘルモ全然信スルニ足ラサル虚

憲ハ將來ノ保障ヲ誓言スルニモ拘ラス今回ノ如キ一層重大ナル事件ヲ惹キ起シタルハ誠ニ遺憾ノ次第ニシテ今回ノ事件ニ関シテハ支那側ニ対シ嚴重ナル要求ヲ為シ結局事件ヲ奉天總領事館又ハ公使館ニ移ス方便宜ナリト被思料候ニ付テハ何分ノ義御回電相成候様致度此段御報告旁愚見申進候

敬具

追而我二名ノ負傷兵ハ二十九日ノ朝鄭家屯出發当地ニ送致セラル、コト、相成候尚我方ニ於テ所在探査ナリシ吳鎮守使ハ二十八日鄭家屯ニ於テ我軍隊ト会见ヲ了シタル趣ニ有之詳細狀況ニ付テハ取調ノ上重ネテ御報告可申右申添候也

説明図添付

本信写送付先 在支公使、在奉天總領事

註 右説明図省略

一二五 九月七日

在中国日置公使ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中国側ハ鄭家屯附近衝突事件ノ地方的解決方

希望ニ付稟請ノ件

第六六六号

在鉄嶺領事発本省宛九月一日附機密第二四号ニ関シ曩ニ曹汝霖ヨリ成ルヘク地方限リニ解決スル様致タキ旨懇談ノ次第アルノミナラス八月二十九日孫宝琦ヨリ我軍隊ハ附属地外ニ駐屯スルハ条約ニ背クヲ以テ速ニ撤退セシメラレタキ旨申出タルコトモアルニ付落合ヲシテ篤ト事件ノ真相突止メシメタル上昨今ノ場合故成ルヘク穩便ニ地方限ニ解決ヲ図ル様御詮議相成様致タシ

一二六 九月八日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

吳統領日本行軍隊長井上少佐ヲ往訪並日本士
官招宴ノ件

各領機密第二七号 (九月十五日接受)

大正三年九月八日

在鉄嶺 領事 森 田 寛 藏(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

我鄭家屯行軍隊ト支那巡警トノ衝突事件ニ関シテハ九月一日附機密第二四号拙信ヲ以テ御報告申進置候間御承悉ノコト、存候然ルニ客月三十日鉄嶺本隊ニ帰還シタル同行軍隊長井上歩兵少佐ノ直話ニ依レバ客月二十七日午前十時在鄭

家屯巡防隊長吳俊陞ハ同少佐ヲ其宿舍ニ往訪シ行軍隊着鄭ノ数日前奉天張上將軍ヨリ急ニ出張ヲ命セラレシ為メ乍遺憾石統領(馬隊長)ヲシテ代行軍隊ヲ歡迎セシメタル次第ナリト述べ其出張先ノ何レナリシヤハ秘シテ語ラズ且ッ毫モ巡警トノ衝突事件ニ言及セズ然ルニ同夜吳ハ行軍隊將校一同ヲ其衙門ニ招キ盛饗ヲ開キ支那側將校ハ拳ツテ接待甚勉メ就中吳ハ最懇懃ヲ極メタル趣ナルモ彼我共ニ今回ノ事件ニ付テハ一言ヲモ發セサリシトノコトニ有之候
右為御參考御報告申進候 敬具

一二七 九月十一日 福島関東都督ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯附近衝突事件ノ善後策ニ付関東都督意
見開陳ノ件

機外第一四〇号 (九月十八日)

大正三年九月十一日

関東都督男爵 福 島 安 正(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

西孔樹林ニ於テ支那予備巡警隊カ我行軍隊ニ向テ故意ニ挑発の行動ニ出テ彼我衝突我軍ニ於テ下士卒二名ノ重傷者ヲ

一二八 九月十七日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中国側ノ我鄭家屯駐兵撤退時期問合及中国巡
警ノ留置繼續ニ付請訓ノ件

第一二号

機密第二四号拙信ニ関シ支那側屢々本件ニ付我ノ意嚮及ヒ鄭家屯滞在我兵員(三中隊内二中隊ハ鉄嶺ニ帰還セリ)同時撤退時機等問合セ来レドモ本件ハ未タ交渉開始ノ時機ニ至ラサルニ付回答ノ限リニアラサル旨ヲ以テ此等区々ノ申出ヲ拒絕シ置キタルモ將來如何取計可然哉尚交渉上有利ナリト思考シ今月迄留置セル拿捕巡警ハ引続キ留置可然哉右ニ関シ何分ノ義御電訓ヲ請フ

一二九 九月十八日 加藤外務大臣ヨリ
在鉄嶺森田領事宛(電報)

鄭家屯ノ我駐兵及中国巡警ノ留置繼續方回訓
ノ件

第一〇号

貴電第一二二号ニ関シ

機密第二四号貴信ニ対シテハ一兩日中ニ書面ヲ以テ回訓ノ

出スニ至リタル事件ハ從來南滿地方ニ於テ時々起リ候数多ノ小紛争ト異リ事態頗ル重大ニ候其交渉談判ニ際シテハ飽迄モ彼等支那官民ヲシテ帝國權威ノ如何ニ畏敬スヘキモノナルカラ知ラシムルノ措置ヲ執ルコト最モ肝要ノ義ニ候然レハ直接關係者ノ処罰監督者ノ処分負傷者ニ対スル撫恤金等ノ要求以外ニ滿蒙ニ於ケル日本人ノ居住權不動産ノ所有權若クハ鉱山採掘權等重要ナル利權ノ獲得ヲ要求スルコトハ頑迷ナル支那官民ヲシテ徒ニ螳螂ノ斧ヲ弄シテ排日行動ニ出ツルノ如何ニ重大ナル結果ヲ生スルモノナルカラ覺知セシムル唯一ノ手段ニシテ帝國ノ勢力ニ牢乎トシテ抜クヘカラサル根柢ヲ扶植スルノ好機會ト存候元来滿蒙地方ニ於テハ我日本人ニシテ居留地以外ニ居住スル者頗ル多ク又合辦ノ形式ニ拠リ或ハ土人ノ名義ヲ仮リ蔭ニ土地家屋ヲ所有シ若ハ鉱業ヲ經營スル者有之候殆ト一種ノ既得權ト申スモ差閥ナカルヘク候唯表面条約上ノ基礎ヲ有セサルカ故ニ紛争ハ屢々起リ身体財産安固ナラス事業ノ經營頗ル困難ニ候今此等ノ權利ヲ条約ニテ明白ニ承認セシムルハ滿蒙開發上ニモ日支国交上ニモ裨益スル所甚少カラスト存候鄙見ヲ陳テ御參考ニ供シ候

運ニ相成居レルガ鄭家屯滞在ノ我軍隊ハ交渉ノ解決ヲ見ルマテハ撤退セシメサルコトニ内定シ居レリ又拿捕巡警ハ追テ何分ノ義申進スル迄ハ留置シ置カレタシ御含迄右貴電第一二号ト共ニ奉天ニ郵報アレ

一三〇 九月二十二日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛

日本軍中国巡警衝突事件解決方及日本側条件

二 付訓令ノ件

附屬書一 大正二年以降滿洲ニ於ケル中国側不法行為事件中将来ニ対スル保障ヲ条件トシタルモノノ実例

二 大正二年以降滿洲ニ於ケル中国側不法行為事件ニシテ将来ニ対スル保障ヲ求メサリシモノノ実例

三 日本軍中国巡警衝突事件ニ対スル中国官憲ノ態度ニ就テノ奉天發秘報

附 記 目下交渉中ノ中国側不法行為実例

政機密送第一一二号

本件顛末ノ大要ハ本省宛九月一日付機密第二四号在鉄嶺森田領事來信等ニ依リ御閱悉ノ通ニ有之我軍隊ハ予メ支那官憲ヘ知照ノ上本件行軍ヲ実行セシモノニシテ支那側ニ於テ

写（訊問調書等）為御参考及添付候也

左 記

第一、暴行下手人タル巡警及土民ヲ嚴重処罰シ右巡警ノ直屬長官タル予備巡警郷長（孫佐臣）ヲ免官スルコト

第二、右巡警及予備巡警郷長ノ直屬長官タル予備巡警總長ヲ嚴重懲戒シ且其直屬長官タル關係県知事ヲ嚴重戒飭スルコト

第三、右關係県知事ヨリ村民一般ニ対シ将来日本官民優遇ニ關スル告示ヲ為スコト

第四、支那政府ハ九月九日付機密第二九号本省宛森田領事來信所載兩負傷者ニ対スル慰藉料トシテ金壹万貳千円（佐藤特務曹長九千円由井二等卒三千円ノ割合）ノ額ヲ支出スルコト

第五、将来ニ対スル保障ハ是レ迄同様ノ事件ニ際シ屢々条件トシタル所ナルモ從來ノ實験ニ徴スルニ支那官憲此類ノ保障ハ全ク空文ニ屬シ現ニ此種大小ノ事件ハ鉄嶺領事館管内ノミニテモ度々ノコトナルハ前記來信末段森田領事申越ノ通りナルニ付今回ノ事件ヲ機トシ支那側ニ対シ左ノ意味ヲ文書ヲ以テ声明シ支那側ヲシテ之ヲ承認セシ

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三〇

モ事情諒悉セル筈ナルニ拘ラス支那巡警等カ故意ニ我軍隊及国旗ニ対シ暴行ヲ加ヘ剩ヘ我兵員ニ重傷ヲ負ハシムルニ至リシハ言語道斷ノ次第ニテ事態頗ル重大ニ屬シ右巡警等ハ馬賊ト戦ヒタルモノニシテ日本軍隊ニ発砲シタルモノニ非スト云フガ如キハ全ク支那側遁辭ニ過キスシテ毫モ彼ノ責任ヲ輕フスルニ足ラサルハ勿論ノ次第ニ有之殊ニ本件裏面ニ吳俊陞一派カ伏在スルハ殆ト疑ナキモノノ如ク此ノ如キ事態ヲ殆ト不問ニ附スルカ如キ結末ニ終ラシムルハ南滿洲地方ニ於ケル我立場上ヨリスルモ到底忍フ能ハサル所ニ有之候ヘ共別紙丙号写ノ通り九月七日在支公使ヨリ電稟ノ次第モアリ帝國政府ニ於テハ刻下大局ノ利害ニ顧ミ忍ヒ難キヲ忍ヒテ成ルヘク穩便ニ之カ解決ヲ図ルコト、シ貴官ヲシテ本件交渉ノ任ニ當ラシムルコトニ決定シタルニ付貴官ニ於テモ右御含相成事件ノ真相更ニ篤ト御研究ノ上大体左記ノ趣旨ニ抛リ速ニ本件解決方可然御尽力相成度將又本件發生ノ際臨時鄭家屯ニ派遣セル我軍隊ハ本件交渉落着ヲ待テ引揚クルコト、可致ニ付本件交渉開始ニ際シ先ツ以テ右ノ趣支那当局ニ適宜声明シ置カル、様致度此段申進候

追テ本件ニ關スル 九月三日付陸軍大臣宛關東都督報告

（註、省略）

メ置クコト予メ支那側今後ノ妄動ヲ戒メ且ツ将来又々同種ノ事件發生シタル場合ニ我方立場擁護ノ措置ヲ執ル為必要ト認ムルニ付右ノ趣旨御含ノ上可然交渉ヲ遂ケラレ度シ尚本項ニ付テハ別紙甲号「大正二年以降滿洲ニ於ケル支那側不法行為事件中将来ニ対スル保障ヲ取付ケタルモノノミニノ実例」及同乙号「大正二年以降滿洲ニ於ケル支那側不法行為事件（将来ニ対スル保障ヲ求メサリシモノ）」兩表参照アリタシ

「不幸ニシテ将来又々同様ノ事件發生シタル場合ニハ我方ハ秩序安寧維持ノ必要上今後ハ其都度我方自ラ適當ト認ムル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘキコト」

第六、吳俊陞ハ御承知ノ鄭家屯北方武器密輸入事件以來一層排日的ト成リ來レルノミナラス支那側ニテモ近來同人ヲ持余シ居ル模様ナルハ前記森田領事來信後段所載ノ吳俊陞カ先般自己管内ニハ日本兵ハ一步モ進入セシメス云々ノ趣張上將軍ニ打電傲語シタリトノ風説竝別紙丁号写陸軍側消息及前記陸軍大臣宛關東都督報告ニ徴スルモ略ホ察知シ得ヘキ所ニ有之旁々今回ノ事件ヲ機トシ同人ヲ免官又ハ更迭セシムルコトト致度尤モ貴官ニ於テ此際強

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三〇

テ同人ノ免官又ハ更迭ヲ迫ルハ將來ノ為却テ我方ノ利益ニ非スト認メラル、ニ於テハ必スシモ之ヲ本件ノ解決条件トスルコトヲ要セサルモ兎モ角成ルヘク速ニ同人ヲ免官又ハ更迭セシムルコト日支国交上支那側ニトリテモ大局ノ利益タルコトヲ支那側ニ説示懇談シ少クトモ之カ免官又ハ更迭ノ言質ヲトリ置クコトト致度シ前記森田領事來信ニヨレバ鉄嶺地方ニ於ケル吳ノ勢力漸ク侮ルヘカサルモノアリテ同地方以北ニ在リテハ民衆ハ張作霖ヲ云ハスシテ吳俊陞ヲ称スル有様ナリトノコトナレバ自然張作霖一派トハ稍々其利害一致セサル傾アルヘキニ付之カ更迭ハ比較的実行容易ナルヘント思考セラル 以上

註 右文書ハ加藤外務大臣ヨリ同日付陸軍大臣宛機密送第九〇号、関東都督宛機密送第六三三号、在中国日置公使宛機密送第三〇八号ヲ以テ夫々發送セラレタリ

(附屬書一)

甲 号

大正二年以降滿洲ニ於ケル支那側不法行為事件
件中將來ニ対スル保障ヲ条件トシタルモノノ
ミノ実例

○同年六月二十六日郭家店ニ於テ支那兵ノ永田徳四郎殺害一件

○同年八月四日滿井駅附近附屬地内ニ於テ支那巡警ノ発砲、掠奪事件

○同年八月十三日山城子ニ於ケル支那兵ノ本邦人ニ対スル暴行事件

○同年八月二十六日公主嶺附屬地ニ於テ支那巡警ノ馬賊射撃事件

(附屬書二)

乙 号

大正二年以降滿洲ニ於ケル支那側不法行為事件
件 (將來ニ対スル保障ヲ求メザリシモノ)

○大正二年六月二十八日西安県大疙疸ニ於テ本邦人二名数名ノ支那人ノ為メニ傷害ヲ受ケタル事件

○同年八月十一日昌図城内ニ於テ支那兵士ノ本邦人殴打事件

○同年八月十七日昌図城内ニ於テ支那巡警ノ本邦人興行場仮小屋破壊及本邦人殴打事件

○同年九月八日奉天ニ於テ日本軍医支那人ノ為メニ暴行ヲ

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三〇

一三〇

○大正二年三月二十四日長春ニ於テ支那兵ノ我警察官派出所襲撃事件

○同年五月九日陶鹿ニ於テ支那巡警ノ我警察官滞在所襲撃及本邦人殴打事件

○同年七月十三日松樹駅事件

○同年八月十一日長春附屬地内ニ於テ支那兵ノ支那料理店ニ対スル暴行事件

○同年八月二十一日長春附屬地内ニ於テ支那巡警ノ馬賊嫌疑者射撃事件

○同年九月八日四平街附屬地内ニ於テ支那巡警発砲事件

○同年九月十五日長春ニ於ケル宮城巡查被害事件

○同年十月八日孤家子駅附近ニ於テ支那巡警ノ本邦人銃殺事件

○同年十月二十日奉天附屬地ニ於テ支那密偵三名杜幼泉逮捕事件

○同年十一月七日金溝子駅附屬地ニ於テ支那予備巡警ノ馬賊射撃事件

○大正三年三月十九日奉天城内ニ於テ支那巡警ノ本邦人家宅搜索、物品押収事件

加ヘラレタル事件

○同年九月八日瓦房店附屬地内ニ於テ支那兵士ノ支那人殴打事件

○同年九月二十九日南台駅附屬地ニ武装シタル支那郷防隊ノ無斷侵入事件

○同年九月二十九日公主嶺ニ於テ数名ノ本邦人支那人ノ為メニ殴打セラレタル事件

○同年十月五日蔡家駅附屬地内ニ於テ支那巡警カ支那人ヲ引致セムトシタル事件

○同年十二月二十五日郭家店附屬地内ニ於テ支那巡警ノ支那人逮捕事件

○大正三年一月十三日八面城ニ於テ本邦人二名多数ノ支那人ノ為メニ殴打セラレタル事件

○同年三月十七日西豊県ニ於テ支那人ノ為メニ本邦人一名殺害セラレタル事件

○同年四月三日鄭家屯ニ於テ支那巡警ノ本邦人殴打掠奪事件

○同年六月二十八日葦子溝附近ニ於テ支那兵士ノ大日方技師殺害掠奪事件

一三〇

○同年八月二十八日昌図県ニ於テ支那巡警ノ本邦人家宅侵入掠奪事件

註 別紙丙号ハ前掲一二五文書ト同文ナルニ付省略ス

(附屬書三)

丁号写

奉天発秘報

支那巡警日本軍隊ト衝突事件ニ対スル支那官

憲ノ態度ニ関スル件

1 行軍隊ニ対シ射撃セシ巡警ハ其奉天后路巡防隊統領吳俊陞ノ部下ニ属スル官兵ナリシカ如ク吳ノ命令ニ依リ行動セシ模様ナリ

2 張作霖、憑嶺閣、吳光新ノ三師団長ハ八月十九日第二十七師司令部ニ会シ日支軍隊衝突ノ件ニ関シ鳩首擬議スル処アリ孰レモ事態容易ナラサルヲ憂慮シ吳俊陞ノ大勢ヲ顧ミサル突飛ノ行動ヲ非難シ頗ル悲観ノ状態ニアリ吳師団長ハ袁大總統及段祺瑞ニ右状況ヲ打電シ同日出發京奉線ニテ急遽新民府ニ帰隊シ張師団長ハ北大營第二十七師稽查処員李某外一名ヲ同日發四平街ニ実地調査ノ為メ向ハシメ張憑兩師団長ハ同夜張上將軍ヲ訪ヒ張參謀長等ト

本件ニ関シ九月一日付機密第二四号貴信ヲ以テ御報告ノ趣聞悉致候本件ハ其事態ノ極メ重大ナルニ顧ミ奉天ニ於テ之カ交渉ヲ開始スルコトニ決定シ別紙^(註)ヲ通在奉天総領事ニ及訓令置候間右様御承知ノ上今後共必要ナル本件情報資料等ハ成ルヘク至急同総領事ニ通報相成様致度此段申進候也

追而本件行軍隊及事變發生ノ際応援ノ為出動シタル我軍隊ハ目下如何相成居ルヤ為念承知致置度將又前記貴信後段御申越ノ通何等カノ方法ニ依リ更ニ一層予備巡警郷長孫佐臣ノ取調ヲ進ムルノ道アラハ好都合ノ次第ニ付其辺落合総領事トモ打合ノ上可然方途ヲ講セラル、様致度此段申添候也

註 別紙ハ前掲一三〇文書ト同文ニ付省略ス

一三二 九月二十八日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

前関東都督福島陸軍大將ノ吳俊陞優待ニ関シ

報告ノ件

機密第一八七号

(十月三日接受)

大正三年九月二十八日

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三三

徹夜密議スル処アリタリ

(附記)

目下交渉中ノ支那側不法行為実例

一、大正三年八月十七日在鉄嶺歩兵聯隊ノ一隊鄭家屯ニ向ヒ行軍中昌図県西孔樹林附近ニ於テ支那予備巡警及土民ノ為メ射撃セラレタル事件

一、同年十月二十六日我独立守備第二大隊ノ一隊四平街赫爾蘇間行軍中竜王廟(吉林省)ニ於テ支那予備巡警ヨリ発砲セラレタル事件

一、同年十月二十七日滿洲駐屯第十三師団演習中遼陽城西門外ニ於テ支那人ヨリ発砲セラレタル事件

一三一 九月二十二日 加藤外務大臣ヨリ
在鉄嶺森田領事宛

日本軍中国巡警衝突事件解決方落合總領事ニ

訓令シタルニ付必要ノ情報資料同總領事へ通

報アリタキ件

機密送第三二号

鄭家屯方面我行軍隊ニ対シ支那巡警発砲事件

ニ関スル件

在奉天 総領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

前関東都督福島陸軍大將ハ任地旅順ヲ離ル、以前告别ノ為本月廿五日ヲ以テ當奉天ニ来ラレ本官及張上將軍等ヲ歴訪セラレ送留別宴ノ催モ有之タル次第第二候処ソレヨリ数日以前張作霖ハ旅順ニ赴キ福島大將ヲ訪問シタルカ此訪問ニ吳俊陞モ同伴セントノ計画アリシ由ノ処都合ニテ見合トナリタル旨聞及居タルコト有之然ルニ福島大將当地來訪前々日ニ至リ佐藤滿鉄公所長ノ本官ニ語リタル所ニヨレバ福島大將ハ廿五日奉天ニ来ラレタル節吳鎮守使ト面会セラルベキコトニ張作霖トノ間ニ話合成タルヲ以テ張作霖自身及張上將軍ヨリ共ニ吳俊陞ニ電報ヲ發シ当地ニ来ラシムルコトニ取計ヒ吳俊陞ハ直チニ鄭家屯ヲ發シ四平街ヨリ滿鉄ノ汽車ニ搭乗廿五日朝当地ヘ来ルコト、ナリ滿鉄ニテモ相当便宜ヲ与フル次第ナリトノコトニ有之本官ハ吳俊陞ナルモノハ一昨年ノ本邦人銃器輸送隊ヲ虐殺シタル事件ニ関聯シ当方ニ於テ当面ノ責任者トシテ其ノ処分方ヲ支那側ニ申出シ未ダ交渉解決ニ至ラザル行懸アリ特ニ福島大將ノ如キ當時同人ヲ最劇烈ニ攻撃セラレ爾後同人ニハ面会ヲ拒絶セラル、

ノミナラズ同人ト宴会ニテ同席スルコトモ避ケラレタル次第ナルニ今更同人ト握手セラレントスルハ最早曩ノコトハ顧慮セラレザル次第ナルヤ又右ノ外先般鉄嶺ノ行軍部隊ガ鄭家屯附近ニテ予備巡警及暴民ヨリ襲撃セラレタル事件アリ当時陸軍部内ノ人々ニ於テ右事件ヲ以テ吳俊陞ノ責任ナルモノ、如ク認メラレタルヤニ承リ居リタルカ此事ニ就テノ善後策カ未タ如何成リタルヤ承知セザルモ福島大將ガ吳ヲ引見セラレントスル位ナラバ吳ノコトハ別ニ咎ムルニ足ラズト認メラレタル次第ナルヤ孰レニシテモ本官ハ了解ニ苦ム処ニシテ交渉ノ筋道ヨリ謂ヘバ未タ輕々シク福島大將ニ於テ吳ヲ優遇セラル、時機ニアラズト思考ス尤モ大將ハ最早都督ノ地位ヲ去ラレタルコトニモ有之其ノ措置ニ強テ干涉ヲ試ミルノ考モアラサレトモ本官ニ於テハ未タ吳ト握手スル能ハザルベシト述ベ置キタルコト有之其後福島大將奉天ニ来ラレ張上將軍ノ午餐ニ招カレタル処其宴席ニ吳俊陞ノ同席セルモノアリタルノミナラズ廿五日夕方福島大將ノ催サレタル留別晚餐会ニハ大將自ラ吳俊陞ヲ招キ賓客トシテ優待セラレ候此日本官ハ福島大將ニ対シ吳俊陞ニ対スル問責ノ交渉ハ未ダ完結シ居ラザル旨ヲ注意シ待遇上斟酌

追テ本信認メタル後政機密送第一一二号接到仕候同信御訓令末段左記第六項ハ前述ノ如キ次第ナルニ付其ノ推行ニハ尚ホ考究ヲ要スベク又同信ニ添附セラレタル関東都督ヨリ陸軍大臣宛九月三日付報告書中ノ第二意見トアル処ニ述ヘラレタル次第ハ前都督タル福島大將カ今回吳俊陞ニ対シ執ラレタル措置トハ之ヲ対照了解スルコト困難ニ有之候

一三三 九月二十九日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯駐在日本軍隊ノ現況並同地中国官民ノ
態度變更報告ノ件

附屬書 鄭家屯附近駐在日本軍隊ノ現況

機密第三一號 (十月五日接受)

大正三年九月二十九日

在鉄嶺 領事 森 田 寛 蔵(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

鄭家屯方面我行軍隊ニ対シ支那巡警発砲ニ関

スル件

本件ニ関シ本月二十二日附政機密送第三二号貴信ヲ以テ御

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三三

ヲ促シタルモ福島大將ハ吳ナル者ハ世ニ伝フル如キ排日者ニアラズト答ヘラレタルノミニ有之候右福島大將ノ吳優遇ハ最早関東都督タル地位ヲ退カレタル次第ニテモ有之公務ト關係無キカ如クナルモノ一昨年ハ大將自ラ支那官憲ニ対シテ吳ノ責任重大ナルコトヲ切言セラレタルニ係ハラズ其ノ交渉未タ何等要領ヲ得ズ今回又日本軍隊襲撃ノ如キ重大事件ニ關聯シ背面責任者ナリト認メ交渉ヲ開始セントスル場合ニ於テ大將カ輕々ニ右様ノ措置ニ出デラル、ハ大將限ノ責任トシテ敢テ干涉スヘキニアラズトスルモ其結果タルヤ甚面白カラズ我方ニ於テ今後最早吳俊陞ノ責任ヲ問ハズトセバ前年ノ主張モ無意味トナリ我方ニ対スル吳ノ驕慢ハ益甚スキニ至ルベク又今後吳ノ責任ヲ問フコトトセバ処刑若クハ解職転任ヲ要求シ是非共之カ貫徹ヲ期スルコト、ナスニアラザレバ形式一片ノ交渉トナリ何等効果ナキノミナラズ却テ威信ヲ害スルノ虞可有之ト思考致候

右福島大將ノ吳ヲ優遇セラレタル事情ハ前後ノ關係ニ顧ミ本官ノ了解ニ苦ム処ナルモ大將ニ於テハ別ノ意見ヲ有シ居ラル、モノト思考セラルル兎ニ角前述ノ次第御参考迄及報告候 敬具

来示有之致敬悉候貴信末段追書中我行軍隊及事變發生後応援ノ為メ出動シタル我軍隊ノ状況ハ別紙ノ通りニ有之候処同地支那官民ノ態度ハ從來ト全然趣ヲ異ニシ我駐在軍隊ニ対シテハ彼等何レモ畏敬シ從テ在留民ハ凡テ安堵致シ居リ候条右ニ御承知相成度此段申進候 敬具

追而同地支那官憲ハ從來兎角ニ排日ノ態度ヲ採リ来リ在留民ニ対スル紛争絶エサリシヲ以テ本年四月事情調査ノ為出張セシメタル我警察官吏一名ヲ其儘同地ニ滞在セシメ支那側モ亦之ヲ默認シ来リタル次第ニ有之候条此段申添候也

写送付先 在支公使、奉天総領事

(附屬書)

別紙

鄭家屯附近駐在我軍隊ノ現況(九月二十八日)

調

八月十五日鉄嶺ヲ出發シタル井上少佐ノ引率セル行軍隊(歩兵二個中隊三百九十八名、騎兵一個小隊三十一騎)ハ二十日鄭家屯ニ到着シ予テ該県知事ヨリ提供セラレタル宿舍(富豪六戸)ニ入ル是ヨリ先事變發生ト同時ニ同月十八

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三四

日夜鉄嶺ヲ出發シタル増援隊ナル河瀨大尉引率ノ一個中隊ハ二十一日着鄭シ井上大隊ノ指揮ニ入ル十九日公主嶺ヲ出發シタル騎兵約二十及十九日夜鉄嶺ヲ出發シタル歩兵一小隊ハ鄭家屯四平街間ノ連絡ニ従事ス

井上少佐ハ歩兵一中隊及騎兵約三十騎ヲ指揮シテ鄭家屯ニ止リ他ハ同地ヲ引上ケテ各所屬部隊ニ帰還スルコト、ナリ八月二十三日鄭家屯ヲ發シ二十六日各其衛戍地ニ帰着セリ然ルニ残留部隊ハ河瀨大尉指揮シ井上少佐ハ負傷兵ト共ニ八月三十一日鉄嶺ニ帰還セリ(負傷兵ノ經過ニ付キテハ曩キニ報告ノ通りナルカ其後ノ經過益良好ナリ)尚右鄭家屯及其附近残留部隊ノ内一小隊亦引上クルコト、ナリ九月二十二日鉄嶺ニ帰還シ現ニ鄭家屯及四平街鄭家屯間(此ニアルモノハ連絡通信兵)ニアル我軍隊ハ左ノ如シ

鄭家屯	歩兵	河瀨大尉以下	一五四
	騎兵	角田少尉以下	一六
三江口	歩兵	太田少尉以下	三二
	騎兵	下士以下	七
曲家店	歩兵	加賀中尉以下	二六
	騎兵	下士以下	七
太平河	歩兵	下士以下	一五
	騎兵	下士以下	七
四平街	騎兵	下士以下	一〇

一三五

合計 歩兵 二二七
騎兵 四七

一三四 九月三十日 在鉄嶺森田領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

八面城予備巡警郷長孫佐臣ノ取調方ニ付請訓ノ件

第一三三號

機密第三二二號貴信ニ関シ予備巡警郷長孫佐臣取調ノ件ニ付テハ落合總領事トモ打合セテ遂ケタルガ交渉ノ結果支那側ノ承諾ヲ得サル限り今孫ヲ当方ニ引連レ来ルハ相当強力ヲ用ユルニアラサレハ困難ナルヘシト思料セラル如何取計フヘキヤ何分ノ義御電訓ヲ請フ

一三五 十月一日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯附近日中衝突事件ノ解決条件ニ関連シ
福島大將ノ吳俊陞ニ対スル言動ニ付請訓ノ件

第一八八號

貴信機密第一一二二號ニ関シ森田領事ト打合セタル処吳俊陞ガ本件裏面ノ責任者ナリヤハ疑ノ余地アルモ爾カク断定ス

一三六

ルニハ材料ニ乏シク抑留巡警モ在鉄嶺領事館ニテ取調ヘタル結果ニ依レハ右ノ關係ヲ承知シ居ラサルノミナラス旁孫佐臣ノ取調ハ必要ナリト認ムルニ付実行ハ困難ナリシモ何トカ攻究方森田領事ヘ依頼セリ右ノ外本件事実ニ関シテハ此上取調ノ必要ナク又貴訓令ニ列記条件中攻究ヲ要スルハ第六ノコト、思考セラル、処九月二十八日附機密公第一八七号ヲ以テ報告シタルカ如キ事情アリ福島大將ハ呉ノ懲戒ヲ必要ト認メ居ラサルモノ、如クナルニ付テハ同大將右ノ態度ハ帝國政府ノ是認セラル、所ナルヤ本件条件提出方法攻究シタキニ付何分ノ義御電訓ヲ請フ

一三六 十月一日 中村関東都督ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯附近衝突事件ノ解決条件ニハ福島前都
督具申ノ意見採用方切望ノ件

秘第二二八号

「鄭家屯事件解決ニ就キ」落合總領事ニ下サレシ訓令中其条件ニ就テハ前都督ヨリ具申セシ意見ノ採用ヲ切望ス大日方工學士被害事件サヘ新邱炭鉱採掘ノ利権獲得ヲ条件トシテ敵談セシメラレタリト聞ク況ンヤ陛下ノ軍隊及ヒ帝國々

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三六

一三七 一三八

一三八 十月五日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

鄭家屯派遣日本軍ノ撤兵声明等見合方訓令ノ件

第一六〇號

貴電第一八八號ニ関シテハ委細郵報スヘキニ付右接到迄九月廿二日付政機密送第一一二二號本文末段撤兵声明等ノ措置

一三七

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一三九
ヲ見合セ置カルヘシ

一三九 十月六日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛

吳俊陞処罰問題並撤兵声明見合方ニ関シ訓令
ノ件

機密送第一二〇号

鄭家屯方面我行軍隊ニ対シ支那巡警発砲事件

ニ関スル件

本件ニ関シ九月二十八日付機密第一八七号貴信及貴電第一八八号ヲ以テ御稟申ノ次第閣悉吳俊陞処分問題ノ義ニ付テハ矢張り曩ニ九月廿二日付機密送第一一二号中ニ申進置候通り此際是非共同人ノ免官又ハ更迭ヲ要求スルコト、シ已ムヲ得サルニ於テハ右免官又ハ更迭ノ言質丈ニテモ取り置クコト、致度候ニ付右様御承知ノ上可然交渉ヲ遂ケラレ度候將又前記政機密送第一一二号本文末段ニ本件發生ノ際臨時鄭家屯ニ派遣セル我軍隊ハ本件交渉落着ヲ待テ引揚クルコト、可致ニ付本件交渉開始ニ際シ先以テ右ノ趣支那当局ニ適宜声明シ置カル、様致度旨申添置候ヘ共右声明方ノ義ハ全部御見合相成度実ハ前記我軍隊ハ事件落着後幾分減員

ノ如キ一時的突発事件ニ際シ到底考量ニ入ルヘキ筋合ノモノニ無之候ニ付政府ニ於テハ之ヲ其儘ニ付シタル次第ニ有之候間右様御承知相成度將又貴官管轄内ニ於テ發生ノ外交事件ニ関シ隨時貴見ノ程御稟申相成ルハ敢テ差支無之候ヘ共前記貴電秘第二二八号ノ如キハ甚其体ヲ得サル次第第二付自今深ク御注意相成様致度為念此段申進候也

一四一 十月十二日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

中国側ハ蒙古銃器密輸事件ヲモ此際解決シタ

キ考ナルニ付本邦側ノ意向問合ノ件

第一九二号

于冲漢ハ張作霖ノ旨ヲ受ケテ佐藤中佐ヲ訪ヒ一昨年鄭家屯北方ニ於テ起リタル蒙古ヘノ銃器密輸送隊ト吳俊陞部下ノ兵ト衝突シタル事件ハ未解決ノ儘ナル所本件ニ付テハ関東都督府ニ於テ強硬ノ意見ヲ有セラルル為メ其儘ニナリ居ルモノト想像セラルル所斯ル問題ハ可成速ニ解決シ置キ度ニ付支那側ニテ該事件ニ関シ押収シタル銃器ヲ相当代価ニテ日本側ヨリ買受クルコトトシテ本件ヲ終結セハ如何ニ哉尤モ當時死者モ生シタルコトナレハ右以外ニ日本側ヨリ何カ

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一四一

一四〇 二〇八

ヲ行フコトハ可有之モ鄭家屯地方ノ秩序十分ニ確立シ我方ニ対シ何等危険ノ徵象ヲ認メサルニ至ル迄ハ当分ノ其儘駐屯セシムルコト、致度考ニ付右貴官限り御含置相成度此段申進候也

追テ前記機密第一八七号貴信及貴電第一八八号在支公使及在鉄嶺領事ヘ郵報相成度此段申添候也

一四〇 十月六日 加藤外務大臣ヨリ
中村関東都督宛

鄭家屯附近衝突事件解決ニ福島前都督具申ノ

意見採用希望ニ対シ回答ノ件

政機密送第六七号

鄭家屯方面我行軍隊ニ対シ支那巡警発砲事件

ニ関スル件

本件ニ関シ貴電秘第二二八号ヲ以テ御稟申ノ次第閣悉曩ニ九月廿二日付機密送第六三号ヲ以テ写送付ニ及ヒ置タル在奉天總領事宛当方訓令ノ義ハ陸軍省側トモ篤ト協議ノ上大局ニ顧ミ審議決定ヲ見タル次第ニ有之右ト引違ニ九月十一日付機外第一四〇号福島前関東都督來信接到シタルモ右福島都督具申ノ意見ハ全局面ニ亘レル問題ニ触レ居リ本件

要求セラルル意向ニテモアラハ承リテ攻究シ度ク就テハ本件解決ニ関スル関東都督府ノ内意ヲ問合サレタシトノコトナルニ付佐藤ハ一応考ヘ置クヘシト答ヘ置キタルカ右ニ関シ先ツ本官ノ意見ヲ承リタル上旅順ヘ問合スヘシト述ヘタリ佐藤ノ意見ニ依レハ于カ右話ヲ持出シタルハ吳俊陞力先般当地ニ來リ福島大将ノ欲待ヲ了ヘ満鉄側及ヒ日本武官等ト歛ヲ共ニスル等日本側ト大ニ融和スルヲ得タルモ本官カ吳ト打解クルノ態度ニ出テサリシコトガ氣ニ懸リ前記事件ニテモ解決セハ最早日本側ト完全ニ融和スルヲ得ヘシト考ヘタルモノナラン先般ノ鉄嶺行軍隊ノ衝突事件ハ先方ニテハ吳ノ責任ト認メ居ラサルニヤ何事モ氣ニ懸ケ居ラサルモノノ如シトノコトナリ本官ハ本件ニ付テハ攻究ヲ要スル事情アルニ付即答シ難シト答ヘ置キタルカ本件ニ付テハ昨年十月七日付機密第二三五号拙信ニテ上申シタルモ未タ御訓令ヲ得サル次第ナルカ政機密第一二〇号貴訓ニ從ヒ交渉ヲ開始スルニ当リ本件ヲ其儘ニナシ置ク時ハ本件解決ノ機會ハ事實上容易ニ來ルコトナカルヘシト思考セラルルニ付此際共ニ解決ヲ計ルノ必要ナカルヘキ哉為念御詮議ノ次第電報アリタシ

二〇九

一四二 十月十五日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

鄭家屯附近衝突事件交渉開始見合方訓令ノ件

第一六六号

貴電第一九二号ノ件ニ付テハ近日何分ノ義申進スヘキモ本件解決迄ハ政機密送第一一二号及同第一二〇号行軍隊一件交渉開始方一切見合スコト、致度シ為念

一四三 十月二十二日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

蒙古銃器密輸事件ニ対スル我方要求条件ニ関

シ訓令ノ件

第一七三号

貴電第一九二号ニ関シ今回支那側ヨリ進テ本件解決方申出テタルハ我方ニトリ好機會ト認メラル、ニ付篤ト考量ヲ加ヘタルカ実ハ本件ニ付テハ種々帝國政府ニ於テ提出シ度条件アルモ支那側ヨリカク穩和ノ態度ニ出テ来レル以上目下支那当局カ諸種ノ困難ナル問題ニ苦シメル際故我ニ於テモ從來ノ行懸リヲ棄テ大ニ讓歩シ

(一)支那側申出ノ通り押収武器ノ売渡(右ニ付テハ先ツ明治

本電貴電第一九二号ト共ニ北京、長春、鉄嶺及関東都督ニ郵報アリ度シ

一四四 十月二十八日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

蒙古銃器密輸事件交渉ハ新任巡按使ノ着任後

開始ノ件

第一九七号

貴電第一七三号ニ関シ佐藤不在中代理鎌田ヲシテ張作霖及于冲漢ノ帰奉勿々非公式ニ当方大体ノ意嚮ヲ于ニ通セシメ更ラニ先方ヨリ直接本官ニ申出ヅルコトニ取計ハシメタル所于ハ直ニ張作霖ニ報告シ張ヨリ上將軍ニ申出テ速カニ解決セントシタル所上將軍ハ不日着任スル新任巡按使張元奇ヨリ一切ノ外交案件ハ自己ノ着任迄其儘ニナシ置カレタシトノ来翰ニ接シ居タルニ付本件モ同人着任ノ上解決ヲ図ル事然ルヘシト指揮ヲナシタリト于ヨリ鎌田ニ回答アリタリ新任巡按使ハ今明日ニモ着任ノ筈ナル由

一四五 十月三十日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯附近日中衝突事件ニ関連シ吳俊陞ノ処

四十五年六月中支那側ニ示ス為調成シ当時多賀少佐ヨリ貴官ニ送付シタル筈ノ筋書ニ抛ル現銀及武器見積額約拾万余円ヲ拾万円ト切下ケ之ヲ売渡代価トシテ提出シ交渉ノ模様ニヨリテハ結局支那兵ヨリ攻撃セラレタル当時ニ於ケル右現銀及武器ノ実価七万六千円迄讓歩シ差支ナシ尚前記筋書ハ若シ貴館ニ保存シアラサレバ長春領事館ヨリ入手アリ度シ)

(二)死傷者及行衛不明者ニ対スル吊慰金(行衛不明者三名ハ今尚踪跡不明ナルニ付死者ト見做シ合計死者十三名ノ遺族ヘ吊慰金各千五百円計老万九千五百円負傷者三名ヘ慰問金各式百円計六百円合計貳万〇百円)ノ二条件ノミニテ本件ヲ解決スルコトニ詮議シタルニ付貴官ハ右ノ趣可然支那当局ニ申入レラレ他ヨリ障礙ノ出テサル内至急話ヲ纏ムル様御尽力相成度右解決案ハ參謀本部側トモ協議済ナルニ付御含アリ度シ

又前記(一)ニ充当スル金額ハ都合ニ依リ之ヲ我方ヨリノ借款ニ引直スモ差支ナシ其条件担保等ハ其節詮議スヘシ尚吳俊陞処分問題トノ關係モアルニ付本件解決迄鉄嶺行軍隊一件ノ交渉ハ之ヲ見合セ置度ニ付右様御承知置アリ度為念申添ユ

罰問題ニ付意見上申及請訓ノ件

政機密公第二一四号

(十一月四日接受)

大正三年十月三十日

在奉天 總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

鄭家屯附近西孔樹林ニ於テ支那巡警カ我行軍隊ニ対シ発砲シタル事件ニ就キ支那側ヘ要求方客月二十二日附政機密第一一二号ヲ以テ御訓令ノ次第有之右要求条項中吳俊陞処罰ノ義ニ関シテハ本月一日發往電第一八八号ヲ以テ申進タル次第有之候処同月六日付政機密第一二〇号ヲ以テ右ニ対シ御回訓相成委細致敬承候然ル処吳カ本件裏面ノ責任者ナリヤニ就テハ客月一日附森田領事發閣下宛機密第二四号所載鉄嶺領事館ニテ取調ヘタル結果ニヨレバ日本軍隊ニ於テ逮捕シタル支那巡警モ右ノ關係ヲ承知シ居ラサルモノ、如ク從テ我方ニ於テ吳カ本件裏面ニ伏在シタリトノ事実ヲ断定スルノ材料乏シキノミナラス関東都督府ノ意見トシテ吳ヲ本件責任者ト認メ居ル次第ハ前頭政機密第一一二号貴信添付福島前都督ノ稟報ニヨリ承知致シ候得共同大將ハ其後間モナク辭任挨拶ノ為メ来奉ノ砌吳トモ交驩ヲ重ネ且ハ吳ナ

ル者ハ世ニ伝フル如キ排日者ニ非スト公言セラル、等ノコトアリ加之佐藤公所長及近ク旅順ヲ訪問シタル森田吉林領事ノ談話ニヨルモ関東都督府陸軍部ニ於テハ吳俊陞ノ懲罰ヲ希望セス曩ニ吳ヲ責任者ナルカ如ク上申シタルハ福島大將ノ意見ニアラサリシトノコトニ有之都督府陸軍部カ帝國政府ニ対シ先般ノ如キ確然タル稟申ヲ為シツ、当地ニ於テ之ニ反対スル言動ヲ為スハ本官ノ最モ奇怪トスル処ニ有之鄭家屯附近発砲事件ニシテ吳ノ指嗾ニ出タリトセハ万々先般ノ如キ不手際ナルコトハ演セサリシナルベシト認ムル人不尠又現ニ其際鄭家屯地方ニ在留シタル日本人間ノ觀察ニ從フモ吳カ本件教唆者タルコトハ信セラレスト申居候尤モ吳ハ多年來日本ヲ憚リ居タルヲ以テ自然日本側ニ打解クルヲ得ス其結果本件ノ如キ事件發生セハ絶對的ニ何等関知スル所ナカリシト云フヲ得サルカ如ク揣摩セラレ從テ一応疑ヲ挿ムノ余地ナシトセサルモ彼レカ實際ニ於テ裏面ノ責任者ナルカニ就テハ何等具体的ニ立証スヘキ材料無之義ト被認候

事情右ノ如クナルニ就テハ吳ハ一昨年銃器密輸送事件以來兎ニ角我方ニ快カラサル關係ヲ生シ居ルニヨリ我方政策上

容レラレサル場合ニハ実力ニ訴ヘテモ右実行ヲ図ルノ覚悟ヲ以テ為スコト必要ナルヤニ被認候然ル処目下彼レノ奉天官場ニ於ケル勢力ハ其根底甚タ鞏固ニシテ張上將軍ニ於テモ其地位ヲ動スコト頗ル困難ナルヘク殊ニ又張作霖トノ關係ニ就テハ最近数次ノ拙電ニヨリ既ニ御承知ノコト、存シ候カ決シテ反目ノ間柄ト認メ難ク尠クトモ現狀ニ於テハ兩人ノ間柄極テ親善ナルモノ有之現ニ福島大將ト吳トヲ接近セシメタル仲介者モ張ニシテ今回鄭家屯北方武器密輸送事件ニ関シ吳ノ為メニ日本側トノ融和ヲ図リ居ルモ張ニ有之同人カ近來吳ノ為メニ尽力シ居ルコト一方ナラサル次第ナルニ就テハ本件吳ノ懲罰ニ関シ極力我主張ヲ貫徹セントセハ張作霖ニモ多大ノ惡感ヲ与フルコト可有之ト存候右ノ事情ニ有之候ニ就テハ本件ニ関シ再應御詮議ノ上何分ノ義御回訓相成候様致度右事情ヲ具シ此段及稟申候 敬具

一四六 十一月五日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

蒙古銃器密輸事件モ奉天省人事異動ニ依リ早
急解決望薄ニ付吳俊陞懲罰問題ニ付稟請ノ件

第二〇〇号

同人ノ在職ヲ不利益ト認メ右発砲事件ノ發生ヲ機会トシ其解職ヲ迫マルコト、スルカ或ハ近頃帝國軍隊ニ対シ漫ニ敵対行為ヲ為スモノアルヲ以テ威信ヲ示ス為メ強硬ノ要求ヲ為シ之カ貫徹ヲ期スル趣旨ナラハ格別ナルモ然ラスシテ本件ニ関聯シ吳ヲ事實上責任者ナリト認メテ其懲罰ヲ求ムル仕儀ナラハ我主張ノ根拠不充分ニシテ支那側ヲシテ首肯セシムルコトハ困難ナルノミナラス之ヲ実行セシムルコトハ通常ノ手段ニテハ其望渺キ義ト被存候且又前頭機密第一二〇号御申越ノ如ク已ムヲ得サル場合右免官又ハ更迭ノ言質丈ヲ取置クコト、スルトキハ元來鄭家屯北方武器密輸送事件ニ関連スル問責以後我方ニ対シ不快ノ感ヲ抱キ居レル吳ヲシテ本件口約ニヨリ不安且惡感ヲ抱カシムルコト非常ナルヘク而カモ其儘任地ニ止マラシムルコトアラハ同地方ニ於テ我方居留民、旅行者等ニ対シ決シテ利益アル行動ヲ為サ、ルヘキハ勿論ニシテ甚タ好マシカラサルコトニ有之利益上ヨリ云フモ又威信上ヨリ云フモ右ノ如キ態度ハ採ルヘキモノナリヤ否ヤ頗ル疑ナキ能ハス敢テ本官ノ意見ヲ忌憚ナク上申スレハ此際若シ彼レノ懲罰又ハ免職ヲ要求スルトセハ断然我方要求ヲ貫徹スルコト肝要ニシテ我方要求ニシテ

往電第一九七号ニ関シ十一月五日于ガ鎌田ニ報告シタル処ニ依レハ于ハ五六日前其後新ニ政務庁長ニ任セラレタル史紀ニ勧告スル所アリ史モ之ヲ賛成シテ新巡按使ニ申出ツル旨答ヘタリトノコトナルカ一方巡按使ノ交迭ト共ニ当省ノ官界頗ル動揺シ重要ナル文官ハ概ネ交迭ノ模様アルノミナラス張作霖モ当地ヲ去ラントノ意志アリ吳俊陞ト互ニ位地ヲ交換セントノ希望ヲ申出テ張上將軍之ヲ容レテ既ニ北京ヘ上申セル様ノ次第ニ付其成行如何ニ依リテハ本件ノ解決モ急ニ運ハサルコトトナルヤモ知レストノコトナリ事態右様ナルニ付先ツ銃器輸送事件ヲ解決シテ後ニ行軍部隊衝突事件交渉ニ移ラントスルニハ随分時日ヲ要スルヤモ計リ難ク又吳カ当地ニ転任スルヤ否ヤハ未ダ判明セサルモ其模様ニテモアラハ同人処罰問題若シ提起スヘキ次第ナラハ可成速ニ提起シテ是非トモ解決ヲ期スルコト必要ナルヤニ思考セラル

本件ニ付テハ十月三十日付機密第二一四号拙信ヲ以テ上申ノ次第モ有之ニ付御詮議置相成タシ

一四七 十一月七日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯附近日本軍・中国巡警衝突事件商議ニ

關シ祝交渉員來訪ノ件

機密第二二〇号

(十一月十一日接受)

大正三年十一月七日

在奉天 總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

祝交渉員ハ本月五日突然本官ヲ來訪シ過般鉄嶺ノ我軍隊カ鄭家屯ニ向ヒ行軍セルモノニ對シ八面城附近ニ於テ巡警ヨリ發砲セルコトアリ為メニ多少ノ負傷者ヲ生シ巡警ノ数名ハ我行軍隊ニ捕ハレ取調ノ上鉄嶺領事ヨリ該地県知事ニ引渡サレタルコトアリタルハ當時同県知事ヨリ報告有之承知シ居リシカ其後同知事ヨリ本件ノ交渉解決ニ就テハ奉天ニ於テスヘキコトナリタル旨森田領事ヨリノ談話アリタル趣ニテ報告アリタルニ付テハ本件ニ關シ商議致度來訪セル旨ヲ語リ出候間本官ハ之ニ對シ本件ニ關シテハ既ニ一応ノ調査ヲ遂ケタルモ尚ホ二三詳查ヲ要スル点アルヲ以テ目下調査中ナリ且ツ事態タル輕易ノモノニアラサルヲ以テ北京ニ於テ正式ノ外交問題トシテ交渉セラル、コト相当ト認メラル、廉アルモ兩國特殊ノ交誼ニ顧ミ可成地方的ノ解決ヲ

ヘク速ニ解決スル様御尽力アリタシ

一四九 十一月九日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

張作霖ト吳俊陞ノ地位交換ハ実行セサル旨張

錫鑾將軍談話ノ件

第二二二号

貴電第一八九号ニ關シ九日上將軍ニ面會ノ節張吳五ニ地位交換ノ情報アル旨ヲ告ケ其望マシカラサル次第ナルコトヲ注意シタル所上將軍ハ本件ハ張作霖ニ希望アリ公然申立モアリタルハ事實ナルカ其後詮議ノ上実行セサルコトニ決シタル次第ナリト語レリ

一五〇 十一月十二日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

日本軍中国巡警衝突事件及蒙古銃器密輸事件

ニ關スル要求条項中国側ニ提出ノ件

第二二三号

貴電第一八九号ニ關シ十一月十二日上將軍巡按使双方立會ノ上兩件交渉開始スルコトニ打合セ置キタル所上將軍俄カニ病氣トナリタリトテ巡按使ノミ面會セリ本官ハ兩件ヲ区

以テ済マサンコトヲ欲スルヲ以テ目下夫々往復中ニテ或ハ当地ニ於テ商議スルコトニ至ルヤモ計リ難キモ兎ニ角何レニスルモ交渉開始ノ時機ニ至ラサルモノナルヲ告ケタルニ交渉員ハ是非其当地限りニテ円満ニ解決ヲ見ルニ至ランコトヲ切望スル旨語り候

一四八 十一月八日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

張作霖ト吳俊陞ノ地位交換ノ企圖ニ對シ張上

將軍ニ警告方竝交渉ノ順序ニ關シ訓令ノ件

第一八九号

貴電第二二〇号ニ關シ當方ニテハ依然当初ヨリノ主張通り吳俊陞ノ免官又ハ更迭ヲ要求シ度キ考ナルニ付貴官ハ此際不取敢張上將軍ニ對シ吳俊陞ト張作霖トノ位置ヲ交換セントスル企圖アルヤノ趣聞込ミタルガ從來我方ノ氣受極メテ宜シカラサル吳ヲ奉天ニ移スカ如キコトアラハ延テ日支ノ国交上ニモ甚タ面白カラサル影響ヲ及ホスニ至ルヘキ旨篤ト警告シ置カレ度シ尚ホ御來示ノ如キ事態ナルニ於テハ行軍隊一件ト銃器密輸一件ト何レノ交渉ヲ先ニスヘキヤハ一ニ貴官ノ裁量ニ一任スヘキニ付兩件共ニ機ヲ失セス成ル

別シテ各説明ノ上我要求事項ヲ提出シタリ巡按使ハ一昨年ノ事件ニ就テハ上將軍ニ問合セ是等兩件トモ熟議ノ上数日内ニ回答スヘシト答ヘタリ

一五一 十一月十四日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

蒙古銃器密輸事件及日本軍中国巡警衝突事件

ニ關シ張巡按使トノ會見要領報告ノ件

附屬書一

鄭家屯附近日本軍中国巡警衝突事件日本側要
求条項写

二

十一月十二日附落合總領事ヨリ奉天巡按使張
元奇宛公文第六八号写

鄭家屯附近日本軍中国巡警衝突事件ニ關シ照
會ノ件

機密公第二二五号

(十一月廿一日接受)

大正三年十一月十四日

在奉天 總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本月八日貴電第一八九号末段ニ於テ一昨年發生シタル銃器輸送隊一件ト本年ノ鉄嶺行軍隊銃撃一件トニ付キ孰レヲ先ニスヘキヤ本官ノ裁量ニ御委任アリシヲ以テ考量シタル処

先般報告ノ如ク新任巡按使着任以來奉天ノ官場ニ例ノ如ク動搖アリ未タ充分落着カズ從テ一昨年ノ銃器密輸送事件ヲ間接ニ持出シタル筋ニヨリ解決ヲ為サンコトハ少ナクトモ多少時日ヲ待ツニアラザレバ如何トモ致シ難キ次第ナル処一方鉄嶺ノ行軍部隊事件ニ就テハ公然先方ヨリ解決ヲ迫リ同時ニ一昨年ノ事件モ解決スヘキ旨申出デタル次第ニ有之且嘗テ上申ノ如ク本年ノ行軍隊事件ニ関シ交渉ヲ開始シテ武器輸送事件ヲ其儘ニ放任シ置クコトハ一昨年ノ事件解決ヲ殆ンド拋棄スルニ等シキ結果ト相成様被思考候ニ付順序上銃器輸送事件ノ解決ヲ迫リ其後ニテ鉄嶺行軍部隊事件ニ及ボスコト可然ト認メ先般張上將軍及巡按使同列ニテ会见シタキ旨申込ミ置其回答ニヨリ本月十二日往訪シタルニ拙電第二〇三号ノ通り張上將軍ハ前報中国銀行ノ食事ニ招カレ歸來再病氣ニテ臥床中ナルヲ以テ列席スル能ハザル趣ニテ張巡按使ヨリ伝言有之依テ同巡按使一人ト会见ノ上本官ヨリ一昨年武器輸送隊ニ対シ吳統領及其部下ガ穩ナラザル鎮庄手段ヲ執リタルノミナラズ我死傷者ニ対シ忍ブベカラザル殘虐ノ措置ヲ為シ且輸送物全体ヲ沒收シタル事件アリテ未解決ノ儘ナルガ本年亦鉄嶺ヨリ發シタル我行軍隊ニ對

シ支那巡警ガ發砲シタル事件アリ事態甚重大ナルヲ以テ先般來考究中ノ処過日交渉署長來館本件ノ善後策交渉方ヲ求メラレ尚ホ一昨年ノ事件モ解決セントノ趣意ヲ申込マレタル処事件ノ順序トシテ先ツ前者ノ解決ヲ見タル上本年ノ事件ニ関シ商議スルコトトナサンコトヲ相当ト認ムル次第ナルガ貴意如何ト問ヒタル処巡按使ハ一昨年ノ事件ニ関シテハ自分ニ於テ未タ顛末ヲ知悉セザル次第ナルモ同伴ト本年ノ件ハ勿論別個ノ問題トシテ交渉致シタク先ツ一昨年ノ事件ニ関スル本官ノ意見ヲ承知シタシト述ベタルニヨリ本件顛末ニ就テハ一昨年來奉天官場ニ變動多カリシモ現任張上將軍張廿七師長及于前交渉署長等モ善ク熟知スル処ナリ事件ノ發生ハ趙爾巽都督時代ニシテ當時数次ノ交渉ヲ經右解決条件トシテ我方ヨリ三ヶ条ノ要求ヲ提出スルヤ久シカラズシテ都督ノ更迭アリ新都督トシテ張上將軍ノ來任ヲ見ルニ至リ特ニ本官ヨリ注意スル処アリ前後兩都督ノ間ニ本件ニ関シ詳細ノ引継有之タル筈ニテ其後張都督ヨリ本件ハ和衷以テ解決セントノ話アリタル儘トナリ居ル次第ナルガ此際支那側ニ於テモ解決ノ希望アル趣ナルヲ以テ当方ニ於テモ之ヲ諒トシ要求ヲ可成輕減シテ速ニ本件ヲ解決セント欲

スルモノナリト語レルニ張巡按使ハ本官ノ談話ニヨレハ張上將軍ニ於テ熟知ノコトナリトセバ何ゾレ同將軍ト商議スル所アルベキガ趙都督ニ提出シタル三ヶ条トハ何々ナリヤト問ヒタルヲ以テ本官ハ本件ニ関シテハ大体ノ要領ヲ覺書トナシ置キタルヲ以テ一覽ニ供スベシトテ別紙甲号口上書^(註省等)寫ヲ交付シタルニ巡按使ハ之ヲ閱覽シタル後更ニ本年ノ鉄嶺行軍隊銃撃一件ニ就キ本官ノ意見ヲ尋ネタルヲ以テ本官ハ兩件ハ判然區別シテ取扱フベキモノナルコトヲ注意ノ上該件ニ関スル顛末ノ大略ヲ語リ本件ハ重大ナル事件ナルヲ以テ外交案件トシテ北京ニ於テ交渉開始セラルヘキヤモ計リ難キ次第ナリシモ時節柄兩國ノ親交ヲ顧慮シテ当地ニ於テ解決ヲ求ムルコトトナリタル旨ヲ告ゲ尚要求ノ条項ハ六ヶ条ナルコトヲ語リ別紙乙号寫ノ通りノ簡条書ヲ交付セルニ巡按使ハ之ヲ一覽ノ上支那側ニ於テモ二名ノ負傷者ヲ生ジタリトカ又彼此誤解ノ為本件ヲ發生セリトカノ語ヲ洩シタルヲ以テ本官ハ行軍ニ関シテハ予メ鉄嶺領事ヨリ同県知事ニ照会シ置キ日本軍隊ハ巡警發砲當時副官ヲシテ乘馬前進セシメ又其ノ日本軍隊ナルヲ知ラシムル為メ国旗ヲ掲ケテ之ヲ示ス等手段ヲ執リタルニ係ラズ巡警等ハ益々銃撃ヲ

繼續シ遂ニ我方ニ負傷者ヲ生ズルニ至レルヲ以テ之ニ応射シ鎮庄スルニ至レル次第ニテ其後取調ノ結果彼等ハ日本軍隊ナルコトヲ熟知ノ上射撃ヲ加ヘタルモノナルコト明白トナリ事件頗ル重大トナリ軍隊モ甚憤リ居レル次第ナリト説明シ尚ホ追テ公文ヲ以テ照会スル所アルベシト云ヒタルニ張巡按使ハ前段ノ事件ハ未ダ十分ニ承知シ居ラザルヲ以テ上將軍ト商議スベク後段巡警發砲事件ハ自分ニ於テ考量ヲ加ヘタル上数日内ニ回答致スベシト答ヘ且總テノ懸案ハ勿論將來發生スベキ諸案件ニ付テモ可成速ニ解決センコトヲ希望シ自分ニ於テモ事件ヲ未了ノ儘ニ放任スルコトヲ好マザル処ナリト語リタルヲ以テ会见ヲ終リ歸館後同巡按使ニ對シ別紙丙号寫ノ通り公文ヲ以テ及照會置候右為御參考及報告候 敬具

本信寫送付先 在支公使

(附屬書一)

乙号寫

鄭家屯附近日本軍中国巡警衝突事件日本側要

求条項

一、暴行下手人タル巡警及土民ヲ嚴重ニ処罰シ右巡警ノ直

屬長官タル預備巡警郷長(孫佐臣)ヲ免官スルコト

二、右巡警及預備巡警郷長ノ直屬長官預備巡警總長ヲ嚴重懲戒シ且其直屬長官タル關係県知事ヲ嚴重戒飭スルコト
三、右關係県知事ヨリ管内一般人民ニ對シ將來日本官民優遇ニ関スル告示ヲ為スコト

四、當時右胸部貫通銃創ヲ受ケタル我陸軍歩兵特務曹長佐藤与四郎及胸部貫通銃創ヲ受ケタル同二等卒由井末三郎ニ對シ慰藉料トシテ金壹万貳千円(佐藤特務曹長九千円由井二等卒參千円)ノ額ヲ支払フコト

五、左ノ声明ニ對シ文書ヲ以テ承認ノ旨回答スルコト

不幸ニシテ將來又々同様ノ事件發生シタル場合我方ニ於テハ秩序安寧維持ノ必要上今後ハ其都度我方自ラ適當ト認ムル措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルヘキコト

六、洮遼鎮守使吳俊陞ハ本件責任者トシテ免官又ハ更迭セシムルコト

(附屬書二)

丙号写

公文第六八号

以書翰致啓上候陳者本年八月十五日鉄嶺発鄭家屯方面ニ行

軍セル我歩騎聯合部隊ニ對シ當時鉄嶺駐在帝國領事ヨリ予メ同地方貴方県知事ニ對シ右ノ趣及照會置候ニモ拘ラス同月十七日該行軍部隊カ八面城ヲ出發シ馬家堡ニ向ヒ行進中同日午後二時東孔樹林ヲ出ヅルヤ山咀子方面ヨリ突然貴邦巡警及貴邦人二三十名ヨリ數十発ノ射撃ヲ被リタルニヨリ同隊長ハ右ハ何等欺誤解ニ基因スルニアラスヤト思料セルヲ以テ彼等ニ對シ其日本軍隊ナルコトヲ表証セシムル為メ大隊副官ヲシテ約三百米突前進セシメ帽子手巾ヲ打振り合図セシメ本隊ニ於テハ我國旗ヲ樹立シ日本軍隊タルコトヲ表示シ射撃ヲ中止セシメントシタルモ彼等ハ益々猛烈ニ射撃ヲ加ヘ為ニ副官ノ乘馬ハ頸部ニ銃創ヲ負ヒ國旗ヲ所持セル我カ特務曹長ハ其胸部ニ貫通銃創ヲ負フニ至リ彼等ハ日本軍隊ナルコトヲ知り故意ニ攻撃ヲ為スモノナルコト明ナルヲ認メタルニヨリ已ム無ク応急処置ニ出デ射撃ヲ開始シタルニ彼等ハ暫時抵抗ヲ持續シタル後退却セルヲ以テ我行軍隊ハ続テ彼等ノ射撃地点ヲ占領シ其ノ六名ヲ捕獲シ銃器九ヲ得タリ此間我ニ於テ前記特務曹長ノ外一名ノ負傷(胸部貫通銃創)ヲ見ルニ至リタル事実有之貴方ニ於テモ夙ニ御知悉相成居候事ト思考シ候

府ニ於テ忍フコト能ハサル所ナレトモ帝國政府ハ深ク兩國ノ交誼ヲ顧ミ忍ビ難キヲ忍ビ最穩和ナル解決条件トシテ左記六個条貴方ニ對シ及要求候右ハ当方ニ於テ是非共貫徹ヲ必要ト致居ル次第第二付右御了承ノ上至急右条件ノ通り御處理相成候様致度此段帝國政府ノ訓令ニヨリ照會得貴意候

敬具

尚本件ニ関シ何分ノ儀御回答相成度申添候

記

(註 以下第一乃至第六ノ六個条ハ前掲乙号写ト同文ナルニ付省略ス)

大正三年十一月十二日

大日本帝國奉天總領事 落合謙太郎

奉天巡按使 張元奇殿

一五二 十一月三十日

在奉天落合總領事ヨリ加藤外務大臣宛

蒙古銃器密輸事件及日本軍中国巡警衝突事件

ニ関シ中国側トノ會談要領報告ノ件

機密公第二三四号

(十二月七日接受)

大ナル事件ニ對シ姑息ノ解決ヲ与フルカ如キハ日本帝國政

在奉天 総領事 落合謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シ本月十二日張巡按使ト会見シタル要領ハ拙電第一八九号及同十四日付機密第二二五号ヲ以テ大略報告ニ及ビ置候其後張上將軍來訪シタルニ付右会見ノ事ニ言及シ巡按使ニ提出シタル条件ハ孰レモ詮議ニ詮議ヲ重ネ深ク研究ノ上不得巳ト認メタルモノノミヲ挙ゲタルモノニテ当方ニ於テハ頗ル重ヲ置クモノナレバ其積ニテ詮議セラルヘシト語リ置候尚ホ十八日ニ至リ祝交渉員ハ巡按使ノ命ヲ受ケタル趣ニテ本官ヲ來訪シ前記兩件ノ内第一即一昨年ノ銃器輸送隊ノ件ニ付過般交付アリタル簡条書ノ件ニ関シ商議ノ為來訪セル旨ヲ語リ右簡条書ニ於ケル吊慰金及荷物買収トシテ價格ハ幾何ナリヤト問ヒタルヲ以テ本官ハ吊慰金ハ被害者ノ年齢及收入等ニ基キ査定スルモノナルモ之等懸案ヲ速ニ解決セントスル支那側ノ趣旨ヲ諒トシ死者及行衛不明者計十三名ニ対シ各二千五百円負傷者三名ニ同二百円宛計金貳万〇百円ヲ要求シ買収價格ハ十万余円ナルヲ十万円ト切詰メ即總計十二万〇百円ナリト答ヘタルニ交渉員ハ右ハ頗ル高額ナルヲ以テ応シ難キニ付減額ヲ願フコト能ハザルヤ

其筋ニ問合置クヘキ旨述ベ置キタルガ其筋ニ於テハ減額ヲ好マザルモノ、如シ財政困難ノ為支払不可能ナレバ荷物ノ代価ダケハ借款ト為スモ可ナリトノコトニテ又此際支払ヲ了シ本件ヲ直ニ解決セラル、トノコトナラバ前回祝交渉員ニ述ベタル如ク荷物代価中ヨリ二万円丈ケ減額スルコトノ承認ヲ得ル様尽力スヘキニ付至急解決セラレタシト述ベタルニ巡按使ハ本件ニ付再回祝交渉員ヲシテ本官ヲ往訪セシメタル旨ヲ語リ(本官ノ許ヘハ一回來リタルノミ)当省財政窮乏ヲ訴ヘ且ツハ中央政府ニ報告スルニ就テモ都合善キ次第ナルニ付充分減額ヲ請フ旨哀訴シ最初申出額ヨリ二万円ヲ減ジタル十万〇百円ヨリモ更ニ減額ヲ請ヒタルヲ以テ本官ハ如斯要求ハ甚タ謂レ無キコト本件ヲ金額ノ支払ノミヨリ解決セントスルコト既ニ本件ノ性質ニ顧ミ頗ル容易ナル条件ニテ且十二万余円ノ額ハ本件解決ノ条件トシテハ輕キニ過グル程ナルコトヲ説キ本来之等交渉ニ関シ当初多額ノ要求ヲ提出シ談判ノ次第ニヨリ漸次減額ヲ為スカ如キ所謂掛引ヲ用フルガ如キハ本官ニ於テハ執ラサル処ニシテ從來ノ交渉ニテ示セルガ如ク本官ノ提出スル条件ハ總テ調査ヲ重ネ査定ヲ尽シタル上ノモノナルニ付之ニ対シ漫然讓歩

ト頗ニ哀訴シタルヲ以テ本官ハ支那側ニ於テ財政困難ノ為メ支払方都合惡キトセバ買収價格ハ之ヲ借款ノ形式トナスモ可ナリト述ベタルニ祝ハ支那側ノ欲スル処ハ金額ヲ減少セラレンコトヲ希望スルモノナリト云ヒタルヲ以テ本官ハ政府ヨリ指定シ來リタル額ハ如上説ク処ノ如クニシテ此額タルヤ他ノ本件類似ノ事件ニ関スル要求ニ照ストキハ頗ル穩当ナルモノニテ此上減額ノ余地アリトモ思ハレザレトモ支那側ニ本件ヲ速ニ解決セントスル誠意アルヲ認メテ尚ホ二万円位減少ノ余地ナカルヘキヤ試ニ其筋ニ問合置クベシト答ヘタル処祝ハ巡按使モ新任当初ノ事件ニモアリ一切速ニ了結スベク努力シツ、アル次第ナルニ付出來得ル限り尽力ヲ請フ旨ヲ語リ右復命ノ上速ニ解決ヲ計ル可ク本官ガ述ベタル問合ノ回答モ一兩日中ニ來ルナランナド述ベ辭去シタル後一週日余ヲ経ルモ何等ノ申出モ無之却テ祝ハ其ノ尽力ニヨリ本官ノ要求額ヲ減セシメタルコトヲ得意トシテ報告シタル処巡按使ハ亦十万余円ニテモ多額ナリトシ更ニ減額ヲ申込ム意向ナル旨間接ノ筋ヨリ聞及ヒタルヲ以テ本件ノ解決督促ノ意味ヲ以テ廿七日巡按使ヲ往訪会見シ祝交渉員トノ談話要領ヲ述ベ其節要求金額減少ノ依頼アリ本官ハヲ求メラル、如キハ到底本官ノ応ズル能ハザル処ニシテ過般交渉員ニ対シテ支那側ノ誠意ヲ諒トシ且ツ本件ノ解決ヲ速カナラシムルノ主旨ヨリ多少ノ減額ヲ其筋ニ稟申センコトヲ述ベタルハ全ク右金額ニテ纏メントスル為ニテ其以上ハ其筋ニ於テモ減額ノ余地ナシト為シ居レル処ナルヲ以テ貴方ノ要求ニ応シ難シ又財政窮乏云々ノ言アリシガ之ニ対シテハ我方ニ於テモ顧念スル処アリタルヲ以テ荷物買収額丈ケハ借款ノ形ニスルモ可ナリト云ヒタルモノナリト云ヒタルニ巡按使ハ之ヲ借款ノ形トスルモ早晚還付スルノ要アリト云ヒ国交ノ親密ヨリ説キ更ニ本官ノ情誼ニ訴ヘ十万〇百円ヨリモ更ニ減額ヲ稟申方取計ハレタキ旨請ヒタルヲ以テ本官ハ斯ル要求ニハ到底応シ難シ只支那側ニ於テ誠意ヲ以テ本件ヲ速カニ解決セントノコトナラバ荷物代価ヨリ約二万円減額スルコト丈ケ承認ヲ得ル様尽力スベキモ其以上ノコトハ絶対ニ不可能ナリト答ヘタル処巡按使ハ兎ニ角自分ニ於テ応否ヲ回答スル能ハサル処ナルヲ以テ一応政府ニ上申ノ上何分ノ回答ヲナスベシト述ベ次ニ語ヲ改メ本年我行軍隊ニ対シ預備巡警ガ発砲シタル件ニ就キテモ此際商議致シタシト述ベタルヲ以テ本官ハ順序トシテ前件ノ決了ヲ

俟チテ本件交渉ニ入ルヲ可トスベシト述ベタルニ巡按使ハ本件モ亦速ニ解決スル様相當話ヲ進メ置ク方可ナリト考フル次第ニテ本官ニ於テモ凡テノ案件ヲ速ニ結了スルヲ希ハル、処ニアラズヤトノコトナリシヲ以テ總テノ案件ヲ速ニ解決スルコトハ本官ノ希フ処ナルモ數事件ヲ同時ニ交渉スルコトハ複雑ヲ来タサルヤノ恐アルヲ以テ先ツ簡單ナル一事件ヲ落着セシメント欲スルナリト述ベタル処巡按使ハ過般本官ヨリ提出シ置ケル本件解決条件ニ就キ意見ヲ述ベタシト申出デタルガ故ニ本官ハ右条件ニ對スル意見ダケナラバ本日聞クモ可ナリト云ヒタルニ巡按使ハ当方提出ノ六条件中ノ吳俊陞ノ免官又ハ転任云々ノ一条件ノコトヲ挙ゲ斯ル条件ハ何ノ理由アリテ提出サル、ヤヲ知ルニ苦ム処ナリト云フヲ前提トシ預備巡警ハ地方官ノ節制下ニ在ルモノニシテ預備巡警ノ行為ニ不都合アリトセバ監督上ノ責任ヲ存スル処ハ地方官之ニ当ルモノナルコト我行軍ニ關スル支那官憲ノ通知ヲ受ケタルハ行軍隊ノ發進ト同一日ニシテ之ヲ一般ニ周知セシムルノ期間ヲ有セザリシ為本件ヲ惹起セルモノナルコト當時吳統領ノ所在地事件發生地ヲ距ツルコト遙遠ニシテ又命令系統ノ異ナルヲ以テ本件ニ關シ吳統領

方ニ負傷者二名ヲ生ズルニ至リ已ム無ク応急鎮圧ノ処置ニ出デタルモノニシテ日本側ニ於テハ些ノ誤解等ノアリタルモノニアラズ又吳俊陞ハ鎮守使トシテ其管内部下ヨリ此ノ失態者ヲ出タセルダケニテモ責任ハ免カル能ハサル次第ナルニ從來同人ガ排日思想ヲ公言シタルコトアルハ此種ノ事件ヲ激成スルニ關係ナシト云フベカラズ且ツ關係者取調ノ結果ハ彼等預備巡警ノ背後ニ吳ト系統的連絡ノ存シタルノ事實ヲ示スモノアルガ為本要求ヲ出シタルモノニシテ我方ニ於テハ是非本条件ノ承諾ヲ得ルコトヲ必要トスルモノナリト答ヘタルニ巡按使ハ其誤解ノ何レニ存シタルヤハ別個ノ問題トスルモ吳ガ本件ニ關係セルコトハ斷ジテ之レ無シト述ベ何処迄モ吳ノ処分要求ヲ拒絕セント致シ居リ候本官ハ何レ一昨年ノ事件解決後行軍隊事件ノ交渉ニ移ルベキニ付右ノ会谈ハ此辺ニテ止メ置クベキ旨申置候右為御参考及報告候 敬具

本信写送付先 駐支公使

一五三 十二月四日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

吳俊陞懲罰問題ニ付張巡按使困惑ノ模様ナル

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一一三

ハ何事ヲモ為シ得ベカラザルモノナリシコト等ヲ挙ゲテ極力本件ニ對シ吳俊陞ノ關係ナキコトヲ切言セルヲ以テ本官ハ本条件ノ提出ニ就キテハ我方ニ於テ特ニ慎重ノ調査考究ヲ施シタルモノニシテ事實ノ調査ハ最モ詳細ヲ極メ逮捕セル支那人ニ就キテモ充分取調ノ上吳中將ノ關係ヲ確メ更ニ再三考究ヲ經タル上本要求トシテ提出シタルモノニシテ苟モ陸軍中將ノ地位ヲ有スル高官ノ処分ヲ求ルニ不完全ナル調査ニ基キテ漫然之ヲ提出スルガ如キモノニアラザル旨語レルニ巡按使ハ支那側ニ於ケル調査ニヨレバ行軍ノコトニツキ通牒アルト同日ニ行軍隊ノ發足アリ一般ニ周知セシムルノ時間ヲ有セザリシ為メ預警ニ於テ我行軍隊ヲ誤解シ行軍隊亦誤解セルニヨリ發生セル事件ニシテ事全ク唐突ニ起リ其間何等吳俊陞ノ関知シ得ベキ処ニアラズ從テ条件中ニ吳ノ処分方ヲ挙ゲラル、理由ヲ解スル能ハザルナリト述ベタルヲ以テ本官ハ誤解云々ニ就テハ前回会见ノ節既ニ説明シ又書面中ニモ述ベ置キタル如ク我行軍隊ニ對シ支那人ノ一隊ハ突然發砲シタルヲ以テ之ハ必ラズ誤解ニヨルナラント察シ我軍隊ハ或ハ国旗ヲ掲ゲ或ハ副官ヲ派シ日本軍隊ナルコトヲ示スコトニ力メタルモ支那人ハ益々射撃ヲ加ヘ我

件

機密第二三七号

(十二月九日接受)

大正三年十二月四日

在奉天 總領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ關シ客月二十七日張巡按使ト会见ノ次第ハ客月三十日附機密公第二三四号ヲ以テ申進置候処本日滿鉄公所員鎌田來館ノ上于冲漢ヨリ得タル内報ナリトテ語ル所ニ依レハ張巡按使ハ昨日張作霖ヲ訪問シ本件ニ付先般來一二次本官ト接衝ノ上北京外交部ニ伺出ツル所アリタルニ同部ヨリ吳俊陞ハ功勞コソアレ何等曲事ナキヲ以テ同人ヲ懲戒スルナトハ到底話ニナラヌ事ナリ又一昨年彼レカ日本人等ノ密輸送ニ係ル武器ヲ沒收スルコトトシテ日本側ニ代償ヲ支払フカ如キハ不可ナル旨訓電シ來リタル次第ニシテ甚當惑シ居ル趣語リタル由ニ有之尚ホ張作霖ハ右ニ對シ嘲笑的口調ヲ以テ実ハ日支親善ノ目的ノ為メ斯ル問題ヲ解決スル様同人限りニ於テ多少尽力スル所アリタルモ今日ノ如ク表沙汰トナリ北京ニ迄上申セラレタルニ於テハ此上ハ迫モ自分ノ力及フ限りニ非スト答ヘタル由ニ有之候本件ニ就テハ右内報

ナキヤ請訓ノ件

第二〇五号

ニ接シタル儘ニシテ未ダ本官ニ対シテハ何等公然ノ回答無
之次第ニ候得共張巡按使ハ本件措置方ニ困難致居ル模様ニ
有之候条本件ノ解決ニハ猶幾多ノ曲折ヲ要スルコト被存
候右御参考迄及報告候 敬具

一五四 十二月八日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

蒙古銃器密輸事件ハ纏ル見込並鄭家屯衝突事

件ハ我要求条項第五第六ノ撤回ヲ中国側要望

ノ件

第二〇四号

十二月八日田交渉員來訪機密第二三四号ニ関シ長時間談判
ヲナセリ武器輸送事件ニ関シテハ機密第二三七号ノ情報モ
アリタレドモ結局約十萬円ニテ略ホ纏ル見込ナルカ行軍隊
事件ニ関シテハ要求事項第五及第六ノ撤回ヲ頗ル熱心ニ求
メ本官ハ強硬ニ我要求ヲ主張シ置キタルカ右兩件ノ承諾ハ
先方ニテ頗ル困難トスルモノ、如シ

一五五 十二月十日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯衝突事件要求条項第五ニ付緩和ノ余地

貴官ハ支那當局ニ対シ行軍隊事件ニ関スル要求条件第五及
第六ハ我方ニテ最重キヲ置ク点ナルニ付形式ニ付テノ讓歩
ハ兎モ角実質ニ付テハ到底緩和ノ余地ナキ旨嚴重申入レラ
レ其趣意ニテ折衝ヲ遂ケ先方ニ於テ飽ク迄右第五及第六ノ
撤回ヲ切望スルニ於テハ武器輸送事件ヲ約十萬円ニテ纏ム
ルコトヲ絶対ノ条件トシテ右第五ノ保障ハ只我方ヨリ之ヲ
声明シ置ク丈ケニ止メ強テ支那側ノ承認ヲ要求セサルコト
トナスヘク又第六呉俊陞処分ノ件ハ支那當局ノ立場ヲ察シ
此際一先ツ之ヲ撤回シ暫ク同人今後ノ行動態度ヲ見ルコト
ト為スヘキ旨申出テラレ差支ナキニ付右ノ含ニテ此際是非
兩件ノ妥結ヲ見ル様可然御措置相成度シ

一五七 十二月十五日 在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯衝突事件要求条項第五第六ニ付中国側

ト折衝ノ件

第二〇六号

貴電第一九八号ニ関シ十二日上將軍二十四日巡按使ニ会见
百方我目的ノ貫徹ニ尽力シタル所先方ハ条件第五号声明
「日本自ラ適當ト認ムル措置」云々ハ甚タ重大ニシテ日本

第二〇五号

往電第二〇四号ニ関シ十日再ヒ來訪巡按使ニ稟議ノ結果要
求条件第五及第六ハ承認シ難キヲ以テ撤回アリ度旨熱心ニ
申出タルニ付本官ハ右兩件ノ形式ニ付讓歩ノ余地ナキヤ攻
究シ置クヘキカ実質ニ付テハ是非共貫徹ヲ要スルニ付再議
アリタシト答ヘ置ケリ右第五項声明ニ関スル件ハ之ヲ緩和
セラルル余地ナキヤ電訓ヲ請フ田ハ又鄭家屯ニ近頃日本領
事館出張所設置ノ風説アルコトヲ述ヘ実否ヲ尋ネタルニ付
本官ハ同地ニ警察官出張セル事實アルモ右風説ノ如キ事實
ナシト答ヘタル処田ハ本交渉解決ノ上ハ同地駐屯ノ日本軍
隊ハ無論引上ケラルルモノト認メ可然ヤト述ヘタルニ付本
官ハ然ラスト答ヘタルニ先方ハ頗ル意外ノ様子ナリキ

一五六 十二月十二日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

鄭家屯衝突事件我要求条項第五第六ニ関スル

讓歩ニ付訓令ノ件

第一九八号

貴電第二〇五号ニ関シ

側ノ声明ノミトスルモ之ヲ受付クルコト不可能ナリ本項ハ
支那側ニ於テ相當ノ措置ヲナス意義ニ改メタキ旨申立數回
折衝シタルモ先方ハ要スルニ北京政府ノ訓令ニ依リ条件第
五号第六号ハ何レモ実質ニ於テ承諾ノ余地ナシト述ヘタル
ニ付本官ハ斯ノ如クナレハ交渉不調ノ外ナキモ大局ニ顧ミ
今一応北京ヘ稟議アリタシ当方モ東京ヘ請訓スヘシト述ヘ
置キタリ

一五八 十二月十五日 加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

鄭家屯衝突事件要求条項第五第六ニ付訓令ノ

件

第二〇〇号

貴電第二〇六号ニ関シ
已ムヲ得サルニ於テハ第五ノ保障ハ実質ニ於テ更ニ幾分緩
和スルモ差支ナシ又第六呉ノ処分ハ往電第一九八号ノ通り
撤回スルコトトシ本件ヲ纏ムルコトニ同意スヘキモ其絶対
条件タル武器輸送事件ノ約十萬円ハ直ニ現金ニテ我方ヘ受
領シ得ル次第ナルヤ当方讓歩ノ意ヲ示スニ先チ其点ニ関シ
予メ先方ノ確約ヲ求メ置カルヘシ

一五九 十二月二十日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛(電報)

鄭家屯衝突事件交渉ニ於テ中国側ヨリ二条件

提議シ来レルニ付請訓ノ件

第二二二号

貴電第二〇〇号ノ趣意ヲ本官ノ私見トシ帝國政府ノ御承認ヲ留保シテ交渉使ニ申込ミ置キタルニ同使ヨリ書面ヲ以テ更ニ左ノ二条件ヲ提議シ来リ同時ニ解決シ度旨申出来レリ
一、鉄嶺行軍部隊ニ於テ衝突事件ノ際什家長一名農夫二名ヲ射殺シタルヲ以テ之ニ相当ノ撫恤金ヲ与フルコト

二、本件ノ結果鄭家屯ニ駐屯スル日本軍隊ハ事件交渉結了ト共ニ撤退スルコト

右ノ内第一ハ不取敢拒絶スルヲ相当トスヘキモ第二ハ先方ニ於テ本件解決ノ目的トナシ居ルモノノ如クナルニ付此際撤兵ノコトヲ全ク別問題トシテ本件ヲ解決スルコト或ハ困難ナランカト思考セラル但シ此際我方ニテハ撤兵ヲモ諾シ且先方今日迄承諾シ居ル条件ノミヲ以テ解決スルコトハ交渉ノ行懸上不得策ト認メラルルニ付或ハ交渉不成立ニ至ルコトアリトモ撤兵ノ要求ハ之ヲ拒絶スルコト可然カト思考

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シ最近交渉ノ成行ハ本月十四日附機密公第二四五号ヲ以テ委細及稟報置候処其後本月二十日発往電第二一二号ヲ以テ大要及稟申候通り同月十七日田交渉員ト会谈ノ上貴電第二〇〇号ノ趣旨ヲ以テ巡警発砲事件ニ関スル我要求条項中第五第六ハ支那側ニ於テ承允スルコト如何ニシテモ事實上困難ナリトノ義ナラハ交渉中止ノ外無キモ斯ノ如キハ兩國交誼ノ為メ不得策ナルヘキヲ以テ本官個人ノ資格ヲ以テ尚ホ解決ノ余地無キヤ否ヤヲ試ムヘキニ付支那側ニ於テモ同一ノ精神ヲ以テ尽力セラレンコトヲ望ム所帝國政府ノ承認ヲ得ルヤ否ヤハ逆睹シ難キモ右条項中ノ第五ノ声明ニ就テハ幾分之ヲ修正シ趣意ニ於テ我方ノ承諾シ得ル限り文句ヲ緩和スルコトトシテ同意スルナラハ第六呉処分ノ件ハ之ヲ本交渉ヨリ分離シ他日ノ談判ニ譲ルコトトナスヘキ様一応帝國政府ニ具申シ見ルヘキニヨリ支那側ニ於テモ本官カ日支親善ヲ顧慮スルノ誠意ニ顧ミ充分ニ考慮ヲ加ヘタル上何分ノ回答アリタキ旨申入置候処田交渉員ハ之ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ巡按使ト協議ノ上回答スヘシト答ヘ居候然ルニ同人ハ同月十九日ニ至リ公文ヲ以テ前頭往電第二一二

ス何分ノ義御電訓ヲ請フ

一六〇 十二月二十三日

加藤外務大臣ヨリ
在奉天落合總領事宛(電報)

鄭家屯衝突事件交渉ニ於ケル中国側提出条件

二関シ訓令ノ件

第二〇四号

貴電第二一二号ニ関シ支那側提出ノ条件(一)ハ勿論受付クヘキ筋合ニアラス(二)ハ我ニ於テ兵員駐屯ヲ絶対必要トスル底意アラサレトモ此際右撤退ノ要求ニ迄応シ居リテハ際限モナキ次第ニ付承諾致シ難シ尤モ已ムヲ得サレバ支那側ノ要求ニヨラズ我方ヨリ進ンテ早晚引揚クル積ナルモ其時期ハ全然我方独断ニテ決定スヘキ旨回答セラレ差支ナシ

一六一 十二月二十三日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯衝突事件交渉ニ於ケル彼我要求ニ関シ

意見稟申ノ件

機密第二五一号

(十二月二十八日接受)

大正三年十二月二十三日

在奉天 總領事 落合謙太郎(印)

号稟報ノ如キ二条件ヲ提議シ来リ同時ニ解決シタキ旨申来リ候右公文ハ其前置ニ於テ小策ヲ弄シ談判ノ成行ヲ誤解セシムルノ虞アル文句ノ記載シアリタルニ付我方ヨリハ館員ヲ派シテ之ヲ詰責シ公文ノ撤回方ヲ要求シタル処田交渉員ニ於テモ之ニ応シタルカ猶支那側被害者三名ニ対スル撫卹金ノ要求並ニ鄭家屯駐屯軍隊ノ撤退ハ中央政府ノ嚴命ニヨリ是非共提議セサル可ラサルニ付公文ハ之ヲ改ムヘキモ右二条件ヲ要求スル趣旨ノ公文ハ近日改テ送付スヘキ処此二条件ヲ絶対ニ拒絶セラル、ナラハ本交渉ハ中止スルノ外無シト唱ヘ居レル由ニ有之候

由來鄭家屯駐屯軍隊撤退ノ義ハ支那側ニ於テ大ニ苦慮シ居ルモノニシテ今回ノ交渉モ彼方ニ於テハ之ヲ目的ト為シ居ル次第ト認メラレ現ニ本月十四日付機密公第二四五号中所載ノ如ク先方ニ於テハ当然ノコトト解シ居リタル次第ニシテ本官ハ御訓令ノ次第ニヨリ本件解決ト軍隊撤退トハ必ズシモ關聯スヘキモノニ非ス我方ニ於テハ爾カク認メ居ラサル旨申聞ケタル処先方ハ頗ル意外ナル模様ナリシニ付此点ニ付テハ此儘黙止スルコト無カルヘキカト思考セラレ候処今回ハ撫卹金ノ要求ニ併セテ先方ヨリ提議シ来リ之レヲモ

同時ニ交渉解決スルニ非レハ交渉ノ不成立モ致方ナシト迄思慮シ居ル様被認次第二有之然ル処巡警発砲事件ノ交渉ニ付我方ニ於テ最も重要ノ条件ト為シ居タル第五第六ノ要求ヲ事實上殆ント譲歩セント迄為シタルハ軍隊撤退問題ヲ無關係ノモノトシテ解決スヘク從テカクセントスルニハ先方ノ苦慮スル点ヲ除キ承諾ヲ容易ナラシムルモ亦不得曰ト思考シタル為ナルヲ以テ如上彼方ヨリ軍隊撤退ヲ提議シ兩者事件ヲ併議スルニ非レハ交渉ヲ中止セントスルカ如キ態度ヲ執リ来リタル以上從來我方ニ於テ斟酌シタルコトモ無意味ナリシモノ、如ク又先方モ左程重要視スル要求ナラハ交渉当初ヨリ正式ニ提議スヘカリシモノヲ其儘ニ為シ置キ其他条件ノミニ就キ交渉ヲ進メ將ニ纏ラントスル場合トナリテ之ヲ提出シ頑固ナル主張ヲ為スカ如キ甚タ妥當ヲ欠ケル態度ト謂ハサルヲ得ス從テ今迄ノ交渉ヲ其儘ト為シ更ニ撤兵ノ要求ヲ容ル、コトハ我方威信及利益ノ上ニ於テ得策ナラサルヤニ思考セラル、ヲ以テ仮令交渉中止トナルノ虞アリトスルモ此際撤兵ノコトハ別問題ト為シ本交渉ト分離セシコトヲ主張スル方可然歟ト思考セラレ候撤兵問題ヲ本交渉ノ解決ニ關聯セシメサル様御訓電アリタル御趣旨ハ機密

キタル方ニテ從來ノ張上將軍又ハ于冲漢トハ其選ヲ異ニシ眼ヲ大局ニ注キテ日支協衷ヲ図ルヨリハ寧ロ極テ微細ノコトニ迄強硬ヲ街フノ態度ヲ採リ徒ニ事端ヲ滋カラシメントスルカ如キ模様有之候

就テハ彼等カ就任后初テ取扱ヒタル交渉案件中ノ重要ナル本件ノ如キ交渉ニシテ万事殆ント彼方ノ主張通リトナリテ解決セラル、コトトモナラハ彼等ヲシテ一層増長セシムルコト、ナリ將來ノ交渉ニ對シテモ累ヲ貽スコトト相成ランカト被存候条右等事情御諒承ノ上何分御詮議相成候様致度此段卑見及稟申候 敬具

一六二 十二月二十四日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯附近日本軍中国巡警衝突事件ニ關シ中

国側要求条件提出ノ件

附屬書

民國三年（我曆大正三年）十二月二十四日附田
交渉員ヨリ在奉天落合總領事宛照会

同右件

機密公第二五四号、

（十二月二十九日接受）

大正三年十二月二十四日

四 鄭家屯附近ニ於ケル中国巡警ノ日本軍隊射撃事件 一六二

第一二〇号貴信ニヨリ承ルコトヲ得タル次第第二有之候処我軍隊鄭家屯ニ駐屯以來本邦人ノ同地ニ在留スルモノ頗ル増加シ目下六十余名トモ相成満鉄ハ交渉局出張所ヲ設クルト共ニ居留民ハ民会ヲ設ケントスル希望アリテ鉄嶺領事館ニ於テ目下研究中ナルカ如キ次第ナル処現任巡按使及交渉員ハ此種現象ヲ苦慮セルモノ、如クニ有之候就テハ撤兵実行セラレタル後ニハ鉄嶺ヨリ派遣セル警察官及日本居留民ノコト等ニ就キ面倒ナル交渉事件ヲ持出スノ形勢無キニ非ス然レハ此際鄭家屯ノ開放又ハ鄭家屯四平街間ノ鉄道敷設速成ハ当地各方面ニ於テ熱心ニ希望セラル、処ナルヲ以テ此等希望貫徹ノ為メ撤兵問題ヲ利用スルコトヲ得ハ好都合カトモ思料被致候モ併シ性質上斯ル重大事件ニ牽聯セシムルモ効果覺束ナキ懸念無キニ非レハ万一此際發生シタル事件ノミノ範圍ニ於テ撤兵ノコトヲ交渉スルコトトスルモ異ノ処分ト我適當ト認ムル措置ヲ執ルコトノ声明ノ要求ヲ復活シテ大体之ヲ貫クコトニ今一応尽力致シ度シト思考致候張巡按使田交渉員着任以來今日迄ノ觀察ニヨレハ当地ニ於ケル日支交渉ノ前途ハ今日迄ノ如ク円満ナルコトヲ得ヘカラスト認メラル、次第第二有之前記兩人共一ハ老翁一ハ小才利

在奉天 總領事 落合 謙太郎（印）

外務大臣男爵 加藤高明殿

本年八面城西方ニ於テ我行軍隊ニ對シ支那預備巡警ガ発砲シタル事件ニ關スル交渉ノ其後ノ成行ニ就テハ本月廿三日附機密公第二五一号ヲ以テ申進置候通ニ有之候該信ニ述ベタル如ク本件ニ關スル支那側ノ要求条件ヲ挙ゲタル照会文ハ妥當ナラザル文句有之タルニ付館員ヲ交渉署ニ派遣シ該公文ヲ返還セシメ置タル処先方ハ其節是非共右要求条件ハ当方ニ提議ヲ要スル旨申居候由ニテ更ニ別紙寫ノ通り字句ヲ訂正ノ上北京政府ヨリノ命令ナリトテ目下鄭家屯ニ駐屯セル我軍隊ノ撤退方並ニ日本兵ノ為本件發生當時射殺セラレタル被害者三名ノ遺族ニ對スル慰藉金支払ノ二条件ヲ提出シ本件ニ關スル交渉条件ト共ニ解決方要求致シ来タリ候ニ付不取敢右及報告候 敬具

本信写送付先 駐支公使

（附屬書）

十二月二十四日附田交渉員ヨリ在奉天落合總

領事宛

照會

外字七一號

二二九

大中華民國簡署外交部特派奉天交涉員田 爲照會事本特派員受政府之命辦理昌圖一案其注意之要點在請貴國撤去遼源所駐兵隊曾經本特派員以個人意見探詢及此又查昌圖案內經

貴國兵隊用排槍擊斃什家長一名農夫二名此是生命關係亦應提出要求

貴國卹金以安死者家屬以上二事均與昌圖案有密切緊要之關係非預先提議將來解決此案別有轉輾殊多不便爲此開列兩條一併照會

貴總領事查照辦理迅即見復以憑詳報政府是所至企此照會

大日本駐奉總領事落合

一日本兵隊所擊斃之什家長一名農夫二名須有相當之卹金

一因昌圖案件日本在遼源所駐兵隊俟所開條件一經商妥即應將兵隊全行撤退

中華民國三年十二月二十四日

(右和訳文)

書翰ヲ以テ啓上致候陳者本特派員ハ政府ノ命ヲ受テ昌圖事件ヲ処理スルニ付テ其注意ノ要點カ貴國ノ遼源駐屯軍隊撤去ノ請求ニ在ルコトハ曾テ本特派員カ個人ノ意見ヲ以テ探

渉署長宛公文第七四号

中国側ノ二条件要求ニ関シ回答ノ件

機密公第二六一号

(二月八日接受)

大正三年十二月二十九日

在奉天 総領事 落合 謙太郎(印)

外務大臣男爵 加藤高明殿

本件ニ関シ本月二十三日附機密公第二五一号及二十四日付同第二五四号ヲ以テ及報告置候処行違ニ貴電第二〇四号御訓令ノ次第有之候ニ付廿六日付ヲ以テ別紙写ノ如キ公文ヲ發送シ置キ廿八日張巡按使ニ面会シ談話ノ序本件ニ言及シ本件ハ元来一事件毎ニ序ヲ逐フテ解決スヘキ趣意ニテ銃器輸送事件ノコトハ大体解決シ得ルニ至リタルモ支那側ニ於テ之ヲ仮ニ解決セルモノト見做シテ更ニ鉄嶺行軍部隊ニ対スル発砲事件ノ交渉ヲ進メ之モ解決ノ上同時ニ実行シタシトノ申出アリ当方ニテハ暫クノ時日ナラバ左様為スモ可ナリト答ヘ其後第二ノ事件ニ付交渉ヲ進メタル処同事件ニ付当方ヨリ要求シタル六個条件ノ内第五第六ノ二条件ニ付行悩ヲ生ジ当方ニ於テハ該二条件ニ重キヲ置キ實質上ニ於テ是非共之ガ貫徹ヲ必要トセル処支那側ニ於テ之ヲ承諾シ難

詢シテ此ニ及ホセリ又按スルニ昌圖事件内ノ貴國軍隊カ一斉射撃ヲ用テ什家長一名農夫二名ヲ射殺シタルハ則チ人命ニ関スル問題ナレハ亦タ貴國ヨリ慰藉金ヲ与ヘテ死者ノ家族ヲ慰安スルノ要求ヲ提出スヘキモノトス以上ノ二件ハ何レモ昌圖事件ニ対シテ密接ナル緊要ノ關係アリ予メ先ツ提議スルニアラサレハ將來此事件解決ノトキ別ニ紛議ヲ生シ殊ニ不便多カラシ依テ此カ為メニ二箇条ヲ列記シ併セテ貴總領事ニ御照会致候間可然御取計ノ上至急御回答相成以テ政府ニ報告スルニ便セラレ度切望致候此段御照会申進候

敬具

一、日本軍隊ノ射殺シタル什家長一名農夫二名ハ相当ノ慰藉金ヲ受クヘキコト

一、昌圖事件ノ為メニ日本ノ遼源ニ於ケル駐屯軍隊ハ記載条件ノ協議纏マリ次第直チニ軍隊全部ヲ撤退スヘキコト

一六三 十二月二十九日

在奉天落合總領事ヨリ
加藤外務大臣宛

鄭家屯附近日本軍中国巡警衝突事件ニ関シ張

巡按使ト会谈及明年交渉再開方申入置ノ件

附屬書 十二月二十六日附奉天落合總領事ヨリ田奉天交

シトノコトニテ結局交渉不調ナルノ外ナキ形勢トナリタルヲ以テ本官ハ個人ノ責任ヲ以テ尚ホ一応解決方ヲ試ミント欲シ条件第五ニ関シ当方ノ満足ヲ得バ第六ハ之ヲ別問題トシテ本交渉ヨリ引離シ他日ニ讓ルコトト為ス様支那側ニテ承諾セバ本官ヨリ政府ニ上申シテ承認ヲ請ハントスル旨同交渉員ニ語ル処アリ之ニ対シ回答ヲ待チ居リタルニ同交渉員ヨリハ意外ニモ本日迄ノ交渉ニ關係無キ支那側被害者ノ遺族ニ対スル撫恤及鄭家屯駐屯日本兵ノ撤退ノ二条件ヲ申出アリタルカスノ如キ交渉方ハ甚其意ヲ得ザル次第第二シテ当方ノ遺憾トスル処ナリ交渉署ニ対シテハ右二件共ニ承諾シ難キ旨回答シ置キタリ即チ第一条件ハ本件ノ發生ニ対スル責任ハ全然支那側ニ存スル次第第二ニ我方ヨリ撫恤金ヲ与フル要求ノ如キハ決シテ之ニ応ズベキ筋合ノモノニアラズ第二撤兵ノ要求ハ又前ニ一応交渉員ノ話ニ対シ説ク処アリタルカ如ク本件善後交渉トハ別箇ノ問題ニシテ此ノ駐兵ハ本件交渉ノ為ニ実行セラレタルニアラズ他ノ必要ヨリセルモノナルガ故ニ其必要ノ止ムト共ニ撤退セラルベキモノ時期等ハ日本側ニテ決スヘキモノナリト語リタルニ巡按使ハ右鄭家屯駐兵撤退ノコトハ要求ニアラズシテ当然ノコ

トヲ声明セルモノナリ該駐兵ノコトハ発砲事件ノアリタル
 為行ハレタルモノニシテ其他ニ何等事由ナキヲ以テ発砲事
 件ノ善後交渉結了セハ言フ迄モ無ク撤兵アルベキハ当然ノ
 コトニテ要求スヘキモノニアラズ又當時支那側ニ於テモ死
 者三名ヲ出シタル処本件ハ相互ノ誤解ニ出デ日本側ノ被害
 者ニ対シ賠償ヲ支払フト共ニ支那側ニ於テモ人命ノ関スル
 処人道上遺族ニ対スル恤金ヲ要求セルハ相当ナリト云ヒタ
 ルヲ以テ本官ハ善後交渉ハ兵力鄭家屯ニ駐在スルト否トニ
 係ラズ是非共行ハサルベカラズ又撤兵ヲ以テ当然ノコトト
 認メ日本側ニ要求スルニアラス声明スルナリト述べラル、
 モ日本ニ於テ交渉ノ結了ト共ニ撤兵スルモノニアラズト声
 明スル以上何等実効無之ニアラズ又支那側ノ死者遺族ニ
 対スル恤金云々ハ是迄度々ノ説明ニテ明ナルカ如ク我方ニ
 テハ之ヲ交渉ノ問題トナスノ余地ナキモノナリ就テハ当方
 要求ノ条件ニ付速ニ解決スル様尽力アリタシト述ヘタルニ
 巡按使ハ一体本件ニ就テハ当初ヨリ屢北京外交部ニ稟議シ
 タル次第ニテ日本側要求条項第五第六ハ到底承諾スルコト
 能ハズ又撤兵ノ如キハ勿論ノコトト認メ居レル次第ナリ自
 分着任以来日本側トノ交渉ニ就テハ及ブベキ限り譲歩シタ

(附屬書)

公文第七四号

以書翰致啓上候陳者本月二十四日附外字第七一号貴翰ヲ以
 テ我行軍隊ニ対シ貴邦巡警カ射撃ヲ加ヘタルノ事件ニ関聯
 シ我兵ノ為メ銃撃ヲ受ケタル什家長一名及農夫二名ノ遺族
 ニ対シ撫卹金ノ支払方並ニ本件解決ト共ニ鄭家屯駐在中ノ
 我軍隊撤退方ニ就キ御照会ノ趣致聞悉候処右巡警発砲事件
 ハ交渉開始ノ当初詳細及説明置候通り我行軍隊ニ於テハ預
 備巡警ノ発砲ニ対シ帝國軍隊ナルコトヲ表明スルノ方法ヲ
 執リタルモ尚ホ益々射撃ヲ加ヘラレタルヲ以テ正当防衛ト
 シテ応急鎮圧ノ手段ニ出テタルモノニシテ本件発生ノ全責

ルモ譲歩ニモ限アリ其程度ヲ超エテハ如何トモ致方無シト
 述べタルニ付本官ハ巡按使着任以来我方トノ交渉ニ付及ブ
 ベキ限り譲歩セラレタリトハ頗ル意外ナリ今日迄何事ニ就
 テ如何ナル譲歩ヲセラレタルヤ本官知ラサル処ナリ腹藏ナ
 ク述ベンニ本官ニ於テハ巡按使当地ニ来任以来日支間ノ交
 渉ハ総テ困難ニ赴カントスル形勢アリ從來極メテ円満ニ進
 行シタルニ反シ近頃ハ当方ヨリ要求スル事柄ハ何事ニ就キ
 テモ百万辞柄ヲ索メテ之ヲ拒マントセラル、ヤニ感ゼラレ
 又支那側ヨリハ些細ノコトヲモ囂々論議照会セラレ殊更ニ
 問題ヲ起サントセラル、ニアラズヤト疑ハル斯ノ如キハ決
 シテ支那ニ取リテモ利益ノコトニアラズ本官ハ大ニ憂慮シ
 機會アラバ懇談致シタシト思ヒ居リタル次第ナリト警告ス
 ル処アリタルニ巡按使ハ任ニ奉天ニ在ルコト今日ニ始マリ
 タルニアラズ日本ノ当方面ニ於ケル位置ハ充分ニ熟知シ居
 レリ決シテ交渉ヲ困難ナラシメントノ意ニアラズト弁疏大
 ニ力メ居リ候尚ホ行軍隊ニ対スル発砲ノ件ノ交渉ハ更ニ来
 年ヲ以テ再ビ開始スベク其間充分ニ攻究シ置カレタキ旨要
 求シタル処巡按使モ同意致シ候右及報告候 敬具
 本信写送付先 在支公使

任ハ貴方ニ存スル次第ニ付右死者遺族ニ対スル撫卹金要求
 ノ如キハ乍遺憾之ニ応スヘキ理由無之又第二項我軍隊ノ鄭
 家屯駐屯ニ關シテハ我方ニ於テ其駐屯ヲ不必要ト認ムル場
 合ニハ之ヲ引上クヘキモ其時期如何ハ我方ニ於テ之ヲ決定
 スヘキ次第ニ有之候条右様御了知相成度此段回答得貴意候
 敬具

大正三年十二月二十六日

大日本帝國奉天總領事 落合謙太郎

奉天交渉署長 田潜殿